

【公開版】

日本原燃株式会社	
資料番号	濃縮個別 52 R3
提出年月日	令和3年12月27日

仕様表に係る補足説明資料

本資料は、【濃縮個別 52 R2】の改訂版（R3）である。
改訂内容は以下のとおり。

○別紙1「仕様表記載例 5, 8, 12, 23d, 23e」について、注記に係る記載を適正化した。

※【濃縮個別 52 R2】から変更した部分を青字にて示す。

目 次

1. 概要 1
2. 仕様表の記載内容の整理 1

添付1 機種別の仕様表の記載方針

1. 概要

本資料は、「全社共通 06 本文（基本設計方針，仕様表等），添付書類（計算書，説明書），添付図面で記載すべき事項」（以降「共通 06」という。）の仕様表の記載方針に基づき，仕様表の記載内容を整理した結果を示し，技術基準適合性，事業変更許可申請書で示した機能・性能が，技術基準等へ適合していることを説明する上で必要な構造・性能等に係る具体的な数値等として仕様表に記載されていることを説明するものである。

2. 仕様表の記載内容の整理

第 5 回申請に係る仕様表の記載内容について，共通 06 で機種別に整理した基本的な記載パターンを基に，濃縮の既認可の記載事項，事業変更許可申請書及び技術基準規則（様式-6,7）の要求事項及び発電炉の要目表の記載事項を考慮して，記載すべき事項を整理した。

第 5 回申請に係る機種別の仕様表の記載方針を添付 1 に示す。

添付 1

機種別の仕様表の記載方針

仕様表記載例 1【機種：容器】

既認可の仕様表	仕様表		要求事項の整理		発電炉類似設備要目表		備考																																																																																																																																	
【既認可仕様表の該当無し】	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>変更前</th> <th>変更後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>名称</td> <td>—</td> <td></td> <td>ハロンポンベ (2号中間室, 2号発 回均質室用)</td> </tr> <tr> <td>種類</td> <td>—</td> <td></td> <td>一般継目なし容器</td> </tr> <tr> <td>容量</td> <td>L/本</td> <td></td> <td>68 以上 (68^{*1})</td> </tr> <tr> <td>最高使用圧力</td> <td>MPaG</td> <td></td> <td>5.2</td> </tr> <tr> <td>最高使用温度</td> <td>℃</td> <td></td> <td>40</td> </tr> <tr> <td>流体等の種類</td> <td>—</td> <td></td> <td>ハロン 1301</td> </tr> <tr> <td>臨 界 管 理</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—^{*2}</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">主 要 寸 法</td> <td>外径</td> <td>mm</td> <td>267.4^{*1}</td> </tr> <tr> <td>高さ</td> <td>mm</td> <td>1515^{*1}</td> </tr> <tr> <td>胴部厚さ</td> <td>mm</td> <td>6.0 (6.0^{*1})</td> </tr> <tr> <td>底部厚さ</td> <td>mm</td> <td>12.0 (12.0^{*1})</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">主 要 材 料</td> <td>本体</td> <td>—</td> <td>マンガン鋼^{*3}</td> </tr> <tr> <td>個数</td> <td>本</td> <td>19</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">取 付 箇 所</td> <td>系統名 (ライン名)</td> <td>—</td> <td>ハロン消火系</td> </tr> <tr> <td>設置床 (室名称)</td> <td>—</td> <td>搬送通路 (2号発回均質室前)</td> </tr> </tbody> </table>				変更前	変更後	名称	—		ハロンポンベ (2号中間室, 2号発 回均質室用)	種類	—		一般継目なし容器	容量	L/本		68 以上 (68 ^{*1})	最高使用圧力	MPaG		5.2	最高使用温度	℃		40	流体等の種類	—		ハロン 1301	臨 界 管 理	—	—	— ^{*2}	主 要 寸 法	外径	mm	267.4 ^{*1}	高さ	mm	1515 ^{*1}	胴部厚さ	mm	6.0 (6.0 ^{*1})	底部厚さ	mm	12.0 (12.0 ^{*1})	主 要 材 料	本体	—	マンガン鋼 ^{*3}	個数	本	19	取 付 箇 所	系統名 (ライン名)	—	ハロン消火系	設置床 (室名称)	—	搬送通路 (2号発回均質室前)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>技術基準</th> <th>機能要求②</th> <th>主な仕様 (詳細設計)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>様式-6,7</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>第十一条 火災等に よる損傷 の防止</td> <td>○火災の感知及び消火 火災の発生を早期に感知し、消火するために以下 の対策を講じる設計とする。 ・本施設内には、火災の消火に必要な容量を有する 消火器等の消火設備を設置する設計とする。 ・コールドトラップ及び均質槽には、従事者が火 災の発生している室に立ち入らずに、早期にかつ 確実に消火できるよう遠隔操作により消火を行 う設備（遠隔消火設備）を設置する。 遠隔消火設備の起動操作は、中央制御室に加え、 2号発回均質室入口付近又は1号均質室入 口付近においても操作可能な設計とする。</td> <td>容量 個数</td> </tr> <tr> <td>第十五条 材料及び 構造</td> <td>○材料 (1) 機械的強度及び化学的成分 容器等に使用する材料は、その使用される圧力、 温度、荷重その他の使用条件に対して適切な機械 的強度及び化学的成分を有する材料を使用する。 ○構造及び強度 (1) 延性破断の防止 容器等は、設計上定める条件において、全体的な 変形を弾性域に抑える設計とする。 (2) 座屈による破壊の防止 容器等は、設計上定める条件において、座屈が生 じない設計とする。</td> <td>主要材料 最高使用圧力 最高使用温度 主要寸法 主要材料</td> </tr> </tbody> </table>		技術基準	機能要求②	主な仕様 (詳細設計)	様式-6,7			第十一条 火災等に よる損傷 の防止	○火災の感知及び消火 火災の発生を早期に感知し、消火するために以下 の対策を講じる設計とする。 ・本施設内には、火災の消火に必要な容量を有する 消火器等の消火設備を設置する設計とする。 ・コールドトラップ及び均質槽には、従事者が火 災の発生している室に立ち入らずに、早期にかつ 確実に消火できるよう遠隔操作により消火を行 う設備（遠隔消火設備）を設置する。 遠隔消火設備の起動操作は、中央制御室に加え、 2号発回均質室入口付近又は1号均質室入 口付近においても操作可能な設計とする。	容量 個数	第十五条 材料及び 構造	○材料 (1) 機械的強度及び化学的成分 容器等に使用する材料は、その使用される圧力、 温度、荷重その他の使用条件に対して適切な機械 的強度及び化学的成分を有する材料を使用する。 ○構造及び強度 (1) 延性破断の防止 容器等は、設計上定める条件において、全体的な 変形を弾性域に抑える設計とする。 (2) 座屈による破壊の防止 容器等は、設計上定める条件において、座屈が生 じない設計とする。	主要材料 最高使用圧力 最高使用温度 主要寸法 主要材料	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>変更前</th> <th>変更後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>名 称</td> <td>—</td> <td></td> <td>ハロンポンベ (ほう酸水注入系ポンプA用)</td> </tr> <tr> <td>種 類</td> <td>—</td> <td></td> <td>一般継目なし容器</td> </tr> <tr> <td>容 量</td> <td>L/個</td> <td></td> <td>68 以上 (68[*])</td> </tr> <tr> <td>最 高 使 用 圧 力</td> <td>MPa</td> <td></td> <td>5.2</td> </tr> <tr> <td>最 高 使 用 温 度</td> <td>℃</td> <td></td> <td>40</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">主 要 寸 法</td> <td>外 径</td> <td>mm</td> <td>265.0[*]</td> </tr> <tr> <td>高 さ</td> <td>mm</td> <td>1500[*]</td> </tr> <tr> <td>胴 部 厚 さ</td> <td>mm</td> <td>□ (5.5[*])</td> </tr> <tr> <td>底 部 厚 さ</td> <td>mm</td> <td>□ (9.0[*])</td> </tr> <tr> <td>材 料</td> <td>—</td> <td></td> <td>マンガン鋼</td> </tr> <tr> <td>個 数</td> <td>—</td> <td></td> <td>3</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">取 付 箇 所</td> <td>系 統 名 (ラ イ ン 名)</td> <td>—</td> <td>ハロンポンベ (ほう酸水注入系 ポンプA用) 消火系</td> </tr> <tr> <td>設 置 床</td> <td>—</td> <td>EL. 38.80 m</td> </tr> <tr> <td>溢 水 防 護 上 の 区 画 番 号</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>溢 水 防 護 上 の 配 慮 が 必 要 な 高 さ</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table>				変更前	変更後	名 称	—		ハロンポンベ (ほう酸水注入系ポンプA用)	種 類	—		一般継目なし容器	容 量	L/個		68 以上 (68 [*])	最 高 使 用 圧 力	MPa		5.2	最 高 使 用 温 度	℃		40	主 要 寸 法	外 径	mm	265.0 [*]	高 さ	mm	1500 [*]	胴 部 厚 さ	mm	□ (5.5 [*])	底 部 厚 さ	mm	□ (9.0 [*])	材 料	—		マンガン鋼	個 数	—		3	取 付 箇 所	系 統 名 (ラ イ ン 名)	—	ハロンポンベ (ほう酸水注入系 ポンプA用) 消火系	設 置 床	—	EL. 38.80 m	溢 水 防 護 上 の 区 画 番 号	—	—	溢 水 防 護 上 の 配 慮 が 必 要 な 高 さ	—	—	<p>注記 *：公称値を示す。</p> <p>溢水防護設計の対象外の機器であるため、溢水に係る項目(系統名, 区画等)は記載していない。</p>
		変更前	変更後																																																																																																																																					
名称	—		ハロンポンベ (2号中間室, 2号発 回均質室用)																																																																																																																																					
種類	—		一般継目なし容器																																																																																																																																					
容量	L/本		68 以上 (68 ^{*1})																																																																																																																																					
最高使用圧力	MPaG		5.2																																																																																																																																					
最高使用温度	℃		40																																																																																																																																					
流体等の種類	—		ハロン 1301																																																																																																																																					
臨 界 管 理	—	—	— ^{*2}																																																																																																																																					
主 要 寸 法	外径	mm	267.4 ^{*1}																																																																																																																																					
	高さ	mm	1515 ^{*1}																																																																																																																																					
	胴部厚さ	mm	6.0 (6.0 ^{*1})																																																																																																																																					
	底部厚さ	mm	12.0 (12.0 ^{*1})																																																																																																																																					
主 要 材 料	本体	—	マンガン鋼 ^{*3}																																																																																																																																					
	個数	本	19																																																																																																																																					
取 付 箇 所	系統名 (ライン名)	—	ハロン消火系																																																																																																																																					
	設置床 (室名称)	—	搬送通路 (2号発回均質室前)																																																																																																																																					
技術基準	機能要求②	主な仕様 (詳細設計)																																																																																																																																						
様式-6,7																																																																																																																																								
第十一条 火災等に よる損傷 の防止	○火災の感知及び消火 火災の発生を早期に感知し、消火するために以下 の対策を講じる設計とする。 ・本施設内には、火災の消火に必要な容量を有する 消火器等の消火設備を設置する設計とする。 ・コールドトラップ及び均質槽には、従事者が火 災の発生している室に立ち入らずに、早期にかつ 確実に消火できるよう遠隔操作により消火を行 う設備（遠隔消火設備）を設置する。 遠隔消火設備の起動操作は、中央制御室に加え、 2号発回均質室入口付近又は1号均質室入 口付近においても操作可能な設計とする。	容量 個数																																																																																																																																						
第十五条 材料及び 構造	○材料 (1) 機械的強度及び化学的成分 容器等に使用する材料は、その使用される圧力、 温度、荷重その他の使用条件に対して適切な機械 的強度及び化学的成分を有する材料を使用する。 ○構造及び強度 (1) 延性破断の防止 容器等は、設計上定める条件において、全体的な 変形を弾性域に抑える設計とする。 (2) 座屈による破壊の防止 容器等は、設計上定める条件において、座屈が生 じない設計とする。	主要材料 最高使用圧力 最高使用温度 主要寸法 主要材料																																																																																																																																						
		変更前	変更後																																																																																																																																					
名 称	—		ハロンポンベ (ほう酸水注入系ポンプA用)																																																																																																																																					
種 類	—		一般継目なし容器																																																																																																																																					
容 量	L/個		68 以上 (68 [*])																																																																																																																																					
最 高 使 用 圧 力	MPa		5.2																																																																																																																																					
最 高 使 用 温 度	℃		40																																																																																																																																					
主 要 寸 法	外 径	mm	265.0 [*]																																																																																																																																					
	高 さ	mm	1500 [*]																																																																																																																																					
	胴 部 厚 さ	mm	□ (5.5 [*])																																																																																																																																					
	底 部 厚 さ	mm	□ (9.0 [*])																																																																																																																																					
材 料	—		マンガン鋼																																																																																																																																					
個 数	—		3																																																																																																																																					
取 付 箇 所	系 統 名 (ラ イ ン 名)	—	ハロンポンベ (ほう酸水注入系 ポンプA用) 消火系																																																																																																																																					
	設 置 床	—	EL. 38.80 m																																																																																																																																					
	溢 水 防 護 上 の 区 画 番 号	—	—																																																																																																																																					
	溢 水 防 護 上 の 配 慮 が 必 要 な 高 さ	—	—																																																																																																																																					

【凡例】

- : 今回の仕様表と既認可仕様表及び要求事項(様式-6,7等)が整合している項目
- : 既認可仕様表のうち、今回の仕様表に反映しない項目(反映しない理由を吹き出しにて記載)
- : 新規規制基準に係る新たな要求事項(様式-6,7等)として仕様表に追加した項目
- : 発電炉の要目表のうち、今回の仕様表に反映しない項目(反映しない理由を備考に記載)
- : 補足説明内容を示す部分

仕様表記載例7【機種：ファン】

既認可の仕様表	仕様表	要求事項の整理	発電炉類似設備要目表	備考																																																																																																																																																																																																																														
<p>表-4 その他の主要な設備の仕様 (除染排風機)</p> <table border="1"> <tr><td>設備機器名称</td><td>除染排風機</td><td>区分</td><td>除染設備</td></tr> <tr><td>台数</td><td>1基</td><td></td><td>該当しないため、記載を削除。</td></tr> <tr><td>設置場所</td><td>除染室</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>境界管理</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>放射線防護</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>耐震</td><td>第2類</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>材料・構造 (温度、圧力)</td><td>温度: 常温 圧力: —</td><td></td><td>主要設備リストで展開。</td></tr> <tr><td>型式</td><td>遠心式</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>主要寸法</td><td>幅: 約800mm 奥行: 約500mm 高さ: 約970mm</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>主要材料</td><td>炭素鋼 (SS41)</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>性能</td><td>風量: 2100m³/h以上</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>核燃料物質の状態</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>その他</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>添付図</td><td>図-4、図-5</td><td></td><td>添付書類に位置付けを変更したため、記載を削除</td></tr> </table>	設備機器名称	除染排風機	区分	除染設備	台数	1基		該当しないため、記載を削除。	設置場所	除染室			境界管理				放射線防護				耐震	第2類			材料・構造 (温度、圧力)	温度: 常温 圧力: —		主要設備リストで展開。	型式	遠心式			主要寸法	幅: 約800mm 奥行: 約500mm 高さ: 約970mm			主要材料	炭素鋼 (SS41)			性能	風量: 2100m³/h以上			核燃料物質の状態				その他				添付図	図-4、図-5		添付書類に位置付けを変更したため、記載を削除	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>変更前</th> <th>変更後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>名称^{*1}</td><td>—</td><td>除染排風機</td><td></td></tr> <tr><td>種類^{*2}</td><td>—</td><td>遠心式</td><td></td></tr> <tr><td>容量 (風量)^{*3}</td><td>m³/h</td><td>2150</td><td></td></tr> <tr><td>最高使用圧力^{*4}</td><td>—</td><td>—^{*5}</td><td></td></tr> <tr><td>最高使用温度^{*4}</td><td>℃</td><td>40</td><td></td></tr> <tr><td>流体等の種類^{*5}</td><td>—</td><td>空気^{*9}</td><td></td></tr> <tr><td>主要寸法</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>たて</td><td>mm</td><td>560^{*10}</td><td></td></tr> <tr><td>横</td><td>mm</td><td>800^{*10}</td><td></td></tr> <tr><td>高さ</td><td>mm</td><td>970^{*10}</td><td></td></tr> <tr><td>主要材料</td><td>ケーシング</td><td>—</td><td>炭素鋼^{*11} 変更なし</td></tr> <tr><td>取付箇所</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>系統名 (ライン名)</td><td>—</td><td>—^{*12}</td><td></td></tr> <tr><td>設置床 (室名称)^{*7}</td><td>—</td><td>除染室</td><td></td></tr> <tr><td>原動機</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>種類</td><td>—</td><td>誘導電動機^{*9}</td><td></td></tr> <tr><td>出力</td><td>kW/基</td><td>5.5^{*9}</td><td></td></tr> <tr><td>個数</td><td>基</td><td>1^{*9}</td><td></td></tr> <tr><td>取付箇所</td><td>—</td><td>除染室^{*9}</td><td></td></tr> </tbody> </table> <p>注記 *1: 記載の適正化。既設工認には「設備機器名称」と記載。 *2: 記載の適正化。既設工認には「型式」と記載。 *3: 記載の適正化。既設工認には「性能」と記載。 *4: 記載の適正化。既設工認には「材料・構造 (温度、圧力)」と記載。 *5: 記載の適正化。既設工認には「核燃料物質の状態」と記載。 *6: 記載の適正化。既設工認には「台数」と記載。 *7: 記載の適正化。既設工認には「設置場所」と記載。 *8: 本機器は、大気圧付近の圧力で使用する排風機であり、その機能及び構造上の耐圧機能が必要としないため、最高圧力を設定しない。 *9: 既設工認に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。 *10: 公称値を示す。 *11: UF₆を内包する機器ではなく、UF₆を閉じ込めるための耐食性、耐圧強度を必要としないため、JIS規格番号は記載しない。 *12: 系統区別を必要としないため「—」とする。</p>			変更前	変更後	名称 ^{*1}	—	除染排風機		種類 ^{*2}	—	遠心式		容量 (風量) ^{*3}	m³/h	2150		最高使用圧力 ^{*4}	—	— ^{*5}		最高使用温度 ^{*4}	℃	40		流体等の種類 ^{*5}	—	空気 ^{*9}		主要寸法				たて	mm	560 ^{*10}		横	mm	800 ^{*10}		高さ	mm	970 ^{*10}		主要材料	ケーシング	—	炭素鋼 ^{*11} 変更なし	取付箇所				系統名 (ライン名)	—	— ^{*12}		設置床 (室名称) ^{*7}	—	除染室		原動機				種類	—	誘導電動機 ^{*9}		出力	kW/基	5.5 ^{*9}		個数	基	1 ^{*9}		取付箇所	—	除染室 ^{*9}		<table border="1"> <tr> <th>技術基準</th> <th>機能要求②</th> <th>主な仕様 (詳細設計)</th> </tr> <tr> <td>第十一条 火災等による損傷の防止</td> <td>様式-6,7 ○火災の発生防止 ・UF₆を内包する機器以外の機器については、可能な限り不燃性又は難燃性の材料 (鋼材) を使用し、水災の発生を防止する設計とする。</td> <td>主要材料</td> </tr> </table> <p>【補足説明】 ・本機器は、第1種管理区域の負圧維持に係る排風機ではないため、閉じ込め、溢水、警報、換気の条文要求に該当しない。</p>	技術基準	機能要求②	主な仕様 (詳細設計)	第十一条 火災等による損傷の防止	様式-6,7 ○火災の発生防止 ・UF ₆ を内包する機器以外の機器については、可能な限り不燃性又は難燃性の材料 (鋼材) を使用し、水災の発生を防止する設計とする。	主要材料	<p>(5) 排風機の名称、種類、容量、主要寸法、個数及び取付箇所並びに原動機の種類、出力、個数及び取付箇所 (常設及び可搬型の別に記載すること。) 並びに設計上の空気の流入率</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>変更前</th> <th>変更後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>名</td><td>中央制御室換気系フィルタ系ファン^{*1}</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>種類</td><td>—</td><td>遠心式^{*2}</td><td>変更なし</td></tr> <tr><td>容量</td><td>m³/h/個^{*3}</td><td>5100以上 (5100^{*4})</td><td></td></tr> <tr><td>吸込口径</td><td>mm</td><td>450^{*4}</td><td>391^{*4}</td></tr> <tr><td>吐出口径</td><td>mm</td><td>350^{*4}×500^{*4}</td><td>271^{*4}×321^{*4}</td></tr> <tr><td>たて</td><td>mm</td><td>1415^{*4}</td><td>1230^{*4}</td></tr> <tr><td>横</td><td>mm</td><td>1132^{*4}</td><td>780^{*4}</td></tr> <tr><td>高さ</td><td>mm</td><td>1020^{*4}</td><td>1250^{*4}</td></tr> <tr><td>個数</td><td>—</td><td>2</td><td></td></tr> <tr><td>系統名 (ライン名)</td><td>—</td><td>中央制御室換気系フィルタ系ファン</td><td>変更なし</td></tr> <tr><td>設置床</td><td>—</td><td>EL.23.00m^{*5}</td><td></td></tr> <tr><td>取付箇所</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>溢水防護上の区画番号</td><td>—</td><td></td><td>CS-3-1</td></tr> <tr><td>溢水防護上の配慮が必要な高さ</td><td>—</td><td></td><td>EL.23.00m以上</td></tr> <tr><td>種類</td><td>—</td><td>誘導電動機^{*5}</td><td></td></tr> <tr><td>出力</td><td>kW/個</td><td>7.5^{*5}</td><td></td></tr> <tr><td>個数</td><td>—</td><td>2^{*5}</td><td>変更なし</td></tr> <tr><td>取付箇所</td><td>—</td><td>排風機と同じ^{*5}</td><td></td></tr> <tr><td>設計上の空気の流入率</td><td>回/h</td><td>1.0^{*5}</td><td></td></tr> </tbody> </table> <p>注記 *1: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「排風機」と記載。 *2: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「遠心」と記載。 *3: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「m³/hr」と記載。 *4: 公称値を示す。 *5: 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。</p>			変更前	変更後	名	中央制御室換気系フィルタ系ファン ^{*1}			種類	—	遠心式 ^{*2}	変更なし	容量	m³/h/個 ^{*3}	5100以上 (5100 ^{*4})		吸込口径	mm	450 ^{*4}	391 ^{*4}	吐出口径	mm	350 ^{*4} ×500 ^{*4}	271 ^{*4} ×321 ^{*4}	たて	mm	1415 ^{*4}	1230 ^{*4}	横	mm	1132 ^{*4}	780 ^{*4}	高さ	mm	1020 ^{*4}	1250 ^{*4}	個数	—	2		系統名 (ライン名)	—	中央制御室換気系フィルタ系ファン	変更なし	設置床	—	EL.23.00m ^{*5}		取付箇所				溢水防護上の区画番号	—		CS-3-1	溢水防護上の配慮が必要な高さ	—		EL.23.00m以上	種類	—	誘導電動機 ^{*5}		出力	kW/個	7.5 ^{*5}		個数	—	2 ^{*5}	変更なし	取付箇所	—	排風機と同じ ^{*5}		設計上の空気の流入率	回/h	1.0 ^{*5}		<p>強度評価等の対象外の機器であるため、口径は記載していない。</p> <p>溢水防護設計の対象外の機器であるため、溢水に係る項目 (系統名、区画等) は記載していない。</p> <p>中央制御室の居住性に係る排風機ではないため、「設計上の空気の流入率」は記載していない。</p>
設備機器名称	除染排風機	区分	除染設備																																																																																																																																																																																																																															
台数	1基		該当しないため、記載を削除。																																																																																																																																																																																																																															
設置場所	除染室																																																																																																																																																																																																																																	
境界管理																																																																																																																																																																																																																																		
放射線防護																																																																																																																																																																																																																																		
耐震	第2類																																																																																																																																																																																																																																	
材料・構造 (温度、圧力)	温度: 常温 圧力: —		主要設備リストで展開。																																																																																																																																																																																																																															
型式	遠心式																																																																																																																																																																																																																																	
主要寸法	幅: 約800mm 奥行: 約500mm 高さ: 約970mm																																																																																																																																																																																																																																	
主要材料	炭素鋼 (SS41)																																																																																																																																																																																																																																	
性能	風量: 2100m³/h以上																																																																																																																																																																																																																																	
核燃料物質の状態																																																																																																																																																																																																																																		
その他																																																																																																																																																																																																																																		
添付図	図-4、図-5		添付書類に位置付けを変更したため、記載を削除																																																																																																																																																																																																																															
		変更前	変更後																																																																																																																																																																																																																															
名称 ^{*1}	—	除染排風機																																																																																																																																																																																																																																
種類 ^{*2}	—	遠心式																																																																																																																																																																																																																																
容量 (風量) ^{*3}	m³/h	2150																																																																																																																																																																																																																																
最高使用圧力 ^{*4}	—	— ^{*5}																																																																																																																																																																																																																																
最高使用温度 ^{*4}	℃	40																																																																																																																																																																																																																																
流体等の種類 ^{*5}	—	空気 ^{*9}																																																																																																																																																																																																																																
主要寸法																																																																																																																																																																																																																																		
たて	mm	560 ^{*10}																																																																																																																																																																																																																																
横	mm	800 ^{*10}																																																																																																																																																																																																																																
高さ	mm	970 ^{*10}																																																																																																																																																																																																																																
主要材料	ケーシング	—	炭素鋼 ^{*11} 変更なし																																																																																																																																																																																																																															
取付箇所																																																																																																																																																																																																																																		
系統名 (ライン名)	—	— ^{*12}																																																																																																																																																																																																																																
設置床 (室名称) ^{*7}	—	除染室																																																																																																																																																																																																																																
原動機																																																																																																																																																																																																																																		
種類	—	誘導電動機 ^{*9}																																																																																																																																																																																																																																
出力	kW/基	5.5 ^{*9}																																																																																																																																																																																																																																
個数	基	1 ^{*9}																																																																																																																																																																																																																																
取付箇所	—	除染室 ^{*9}																																																																																																																																																																																																																																
技術基準	機能要求②	主な仕様 (詳細設計)																																																																																																																																																																																																																																
第十一条 火災等による損傷の防止	様式-6,7 ○火災の発生防止 ・UF ₆ を内包する機器以外の機器については、可能な限り不燃性又は難燃性の材料 (鋼材) を使用し、水災の発生を防止する設計とする。	主要材料																																																																																																																																																																																																																																
		変更前	変更後																																																																																																																																																																																																																															
名	中央制御室換気系フィルタ系ファン ^{*1}																																																																																																																																																																																																																																	
種類	—	遠心式 ^{*2}	変更なし																																																																																																																																																																																																																															
容量	m³/h/個 ^{*3}	5100以上 (5100 ^{*4})																																																																																																																																																																																																																																
吸込口径	mm	450 ^{*4}	391 ^{*4}																																																																																																																																																																																																																															
吐出口径	mm	350 ^{*4} ×500 ^{*4}	271 ^{*4} ×321 ^{*4}																																																																																																																																																																																																																															
たて	mm	1415 ^{*4}	1230 ^{*4}																																																																																																																																																																																																																															
横	mm	1132 ^{*4}	780 ^{*4}																																																																																																																																																																																																																															
高さ	mm	1020 ^{*4}	1250 ^{*4}																																																																																																																																																																																																																															
個数	—	2																																																																																																																																																																																																																																
系統名 (ライン名)	—	中央制御室換気系フィルタ系ファン	変更なし																																																																																																																																																																																																																															
設置床	—	EL.23.00m ^{*5}																																																																																																																																																																																																																																
取付箇所																																																																																																																																																																																																																																		
溢水防護上の区画番号	—		CS-3-1																																																																																																																																																																																																																															
溢水防護上の配慮が必要な高さ	—		EL.23.00m以上																																																																																																																																																																																																																															
種類	—	誘導電動機 ^{*5}																																																																																																																																																																																																																																
出力	kW/個	7.5 ^{*5}																																																																																																																																																																																																																																
個数	—	2 ^{*5}	変更なし																																																																																																																																																																																																																															
取付箇所	—	排風機と同じ ^{*5}																																																																																																																																																																																																																																
設計上の空気の流入率	回/h	1.0 ^{*5}																																																																																																																																																																																																																																

【凡例】

 : 今回の仕様表と既認可仕様表及び要求事項 (様式-6,7等) が整合している項目

 : 既認可仕様表のうち、今回の仕様表に反映しない項目 (反映しない理由を吹き出しにて記載)

 : 新規制基準に係る新たな要求事項 (様式-6,7等) として仕様表に追加した項目

 : 発電炉の要目表のうち、今回の仕様表に反映しない項目 (反映しない理由を備考に記載)

 : 補足説明内容を示す部分

仕様表記載例 11 【機種：主配管】

既認可の仕様表	仕様表	要求事項の整理	発電炉類似設備要目表	備考																																																																																																																																										
<p>該当しないため、記載を削除。</p> <p>表-13 均質・ブレディング設備の仕様 (主配管)</p> <table border="1"> <tr><td>設備機器名称</td><td>均質・ブレディング設備</td></tr> <tr><td>台数</td><td>一式</td></tr> <tr><td>設置場所</td><td>2号発電均質室</td></tr> <tr><td>臨界管理</td><td>核的制限値：濃縮度5%以下</td></tr> <tr><td>放射線防護</td><td>第1類</td></tr> <tr><td>耐震</td><td>第1類 (第1種機器～附属用遮断弁間)</td></tr> <tr><td>材料・構造 (温度、圧力)</td><td>温度：2号均質槽出入口配管カバ内は120℃、電気ヒータによる加熱部は100℃、その他は常温 圧力：2号均質槽出入口配管カバ内は3kgf/cm²G、その他は大気圧以下</td></tr> <tr><td>型式</td><td></td></tr> <tr><td>主要寸法</td><td>呼び径：15 A～50A 主要設備リストで展開。</td></tr> <tr><td>主要材料</td><td>ステンレス鋼</td></tr> <tr><td>性能</td><td></td></tr> <tr><td>核燃料物質の状態</td><td>気体 UF₆</td></tr> <tr><td>その他</td><td>(1) UF₆の配管中での凝結を防ぐため、UF₆圧力が90 Torrを超える配管及び弁に電気ヒータを巻き加熱する。 2号均質槽出入口配管カバ内配管温度が120℃を超える範囲で、また電気ヒータによる加熱部が90℃を超える範囲で警報を発し、自動的にヒータの電源を切る。本インターロックを図-15に示す。 (2) 弁は、無漏えい弁(ペローシール弁)を用いる。</td></tr> <tr><td>添付図</td><td>図-15</td></tr> </table> <p>事業変更許可において生産系のインターロックに位置付けを変更しているため、記載を削除。(本生産系インターロックは事業変更許可添付書類のみに記載)</p> <p>基本設計方針で展開。</p> <p>添付書類に位置付けを変更したため、記載を削除。</p>	設備機器名称	均質・ブレディング設備	台数	一式	設置場所	2号発電均質室	臨界管理	核的制限値：濃縮度5%以下	放射線防護	第1類	耐震	第1類 (第1種機器～附属用遮断弁間)	材料・構造 (温度、圧力)	温度：2号均質槽出入口配管カバ内は120℃、電気ヒータによる加熱部は100℃、その他は常温 圧力：2号均質槽出入口配管カバ内は3kgf/cm ² G、その他は大気圧以下	型式		主要寸法	呼び径：15 A～50A 主要設備リストで展開。	主要材料	ステンレス鋼	性能		核燃料物質の状態	気体 UF ₆	その他	(1) UF ₆ の配管中での凝結を防ぐため、UF ₆ 圧力が90 Torrを超える配管及び弁に電気ヒータを巻き加熱する。 2号均質槽出入口配管カバ内配管温度が120℃を超える範囲で、また電気ヒータによる加熱部が90℃を超える範囲で警報を発し、自動的にヒータの電源を切る。本インターロックを図-15に示す。 (2) 弁は、無漏えい弁(ペローシール弁)を用いる。	添付図	図-15	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">名称^{*1}</th> <th colspan="3">変更後</th> <th colspan="3">変更前</th> </tr> <tr> <th>厚さ</th> <th>外径</th> <th>壁厚</th> <th>厚さ</th> <th>外径</th> <th>壁厚</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>主配管</td> <td>変更なし</td> <td>変更なし</td> <td>変更なし</td> <td>27.2</td> <td>48.6</td> <td>21.7</td> </tr> <tr> <td>側管</td> <td>変更なし</td> <td>変更なし</td> <td>変更なし</td> <td>27.2</td> <td>48.6</td> <td>21.7</td> </tr> </tbody> </table> <p>注記 *1：記載の適正化。既設工区には「設備機器名称」と記載。既設工区には「材料・構造・温度、圧力」と記載。 *2：記載の適正化。既設工区には「核燃料物質の状態」と記載。 *3：記載の適正化。既設工区には「主要寸法」と記載。 *4：記載の適正化。既設工区には「名称」と記載。 *5：公称値を示す。</p>	名称 ^{*1}	変更後			変更前			厚さ	外径	壁厚	厚さ	外径	壁厚	主配管	変更なし	変更なし	変更なし	27.2	48.6	21.7	側管	変更なし	変更なし	変更なし	27.2	48.6	21.7	<p>技術基準</p> <p>機能要求② 様式-6,7</p> <p>主な仕様 (詳細設計)</p> <p>核燃料物質の臨界防止</p> <p>濃縮度、減速度及び形状寸法の核的制限値を定め、濃縮度と減速度及び濃縮度と形状寸法管理を組み合わせ管理</p> <p>閉じ込めの機能</p> <p>○閉じ込めの機能 ウランを内包する設備及び機器は、放射性物質を密封して取り扱うことにより、閉じ込め機能を確保するため以下のとおりの設計とする。 ・ウランを内包する設備及び機器は、UF₆等の取り扱う物質に対して耐腐食性を有する材料を使用し、取扱い圧力に応じた耐圧気密性を確保して放射性物質の漏えいを防止する設計とする。</p> <p>○火災の発生防止 ・UF₆を内包する機器以外の機器については、可能な限り不燃性又は難燃性の材料(鋼材)を使用し、火災の発生を防止する設計とする。</p> <p>材料及び構造</p> <p>(1) 機械的強度及び化学的成分 容器等に使用する材料は、その使用される圧力、温度、荷重その他の使用条件に対して適切な機械的強度及び化学的成分を有する材料を使用する。 ○構造及び強度 (1) 延性破断の防止 容器等は、設計上定める条件において、全体的な変形を弾性域に抑える設計とする。 (2) 座屈による破壊の防止 容器等は、設計上定める条件において、座屈が生じない設計とする。</p> <p>核的制限値：濃縮度</p> <p>主要材料</p> <p>主要材料</p> <p>主要材料</p> <p>最高使用圧力 主要寸法 主要材料</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>設備</th> <th>材料</th> <th>厚さ (mm)</th> <th>外径^{*1} (mm)</th> <th>壁厚 (mm)</th> <th>最高使用圧力 (MPa)</th> <th>最高使用温度 (℃)</th> <th>形状寸法 (mm)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">原子炉運転監視系</td> <td>制御用配管</td> <td>変更なし^{**}</td> <td>609.6</td> <td>72</td> <td>0.014^{**}</td> <td>72</td> <td>変更なし^{**}</td> </tr> <tr> <td>燃料入口弁</td> <td>変更なし^{**}</td> <td>609.6</td> <td>72</td> <td>0.014^{**}</td> <td>72</td> <td>変更なし^{**}</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">原子炉燃料供給系</td> <td>燃料入口弁</td> <td>変更なし^{**}</td> <td>609.6</td> <td>72</td> <td>0.014^{**}</td> <td>72</td> <td>変更なし^{**}</td> </tr> <tr> <td>燃料入口弁</td> <td>変更なし^{**}</td> <td>609.6</td> <td>72</td> <td>0.014^{**}</td> <td>72</td> <td>変更なし^{**}</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">原子炉制御系</td> <td>燃料入口弁</td> <td>変更なし^{**}</td> <td>609.6</td> <td>72</td> <td>0.014^{**}</td> <td>72</td> <td>変更なし^{**}</td> </tr> <tr> <td>燃料入口弁</td> <td>変更なし^{**}</td> <td>609.6</td> <td>72</td> <td>0.014^{**}</td> <td>72</td> <td>変更なし^{**}</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">原子炉圧力調整系</td> <td>燃料入口弁</td> <td>変更なし^{**}</td> <td>609.6</td> <td>72</td> <td>0.014^{**}</td> <td>72</td> <td>変更なし^{**}</td> </tr> <tr> <td>燃料入口弁</td> <td>変更なし^{**}</td> <td>609.6</td> <td>72</td> <td>0.014^{**}</td> <td>72</td> <td>変更なし^{**}</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">原子炉安全保護系</td> <td>燃料入口弁</td> <td>変更なし^{**}</td> <td>609.6</td> <td>72</td> <td>0.014^{**}</td> <td>72</td> <td>変更なし^{**}</td> </tr> <tr> <td>燃料入口弁</td> <td>変更なし^{**}</td> <td>609.6</td> <td>72</td> <td>0.014^{**}</td> <td>72</td> <td>変更なし^{**}</td> </tr> </tbody> </table> <p>注記 *1：公称値を示す。 *2：既設工区には記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、既設工区に記載された工区図及び設計図書(図-15)による。 *3：本設備は既設設備である。 *4：本設備は既設設備である。 *5：既設設備に異なる仕様を適用する。 *6：記載の適正化を行う。既設工区には「燃料入口弁」として記載されている。 *7：記載の適正化を行う。既設工区には「燃料入口弁」として記載されている。 *8：記載の適正化を行う。既設工区には「燃料入口弁」として記載されている。 *9：記載の適正化を行う。既設工区には「燃料入口弁」として記載されている。 *10：記載の適正化を行う。既設工区には「燃料入口弁」として記載されている。</p>	設備	材料	厚さ (mm)	外径 ^{*1} (mm)	壁厚 (mm)	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (℃)	形状寸法 (mm)	原子炉運転監視系	制御用配管	変更なし ^{**}	609.6	72	0.014 ^{**}	72	変更なし ^{**}	燃料入口弁	変更なし ^{**}	609.6	72	0.014 ^{**}	72	変更なし ^{**}	原子炉燃料供給系	燃料入口弁	変更なし ^{**}	609.6	72	0.014 ^{**}	72	変更なし ^{**}	燃料入口弁	変更なし ^{**}	609.6	72	0.014 ^{**}	72	変更なし ^{**}	原子炉制御系	燃料入口弁	変更なし ^{**}	609.6	72	0.014 ^{**}	72	変更なし ^{**}	燃料入口弁	変更なし ^{**}	609.6	72	0.014 ^{**}	72	変更なし ^{**}	原子炉圧力調整系	燃料入口弁	変更なし ^{**}	609.6	72	0.014 ^{**}	72	変更なし ^{**}	燃料入口弁	変更なし ^{**}	609.6	72	0.014 ^{**}	72	変更なし ^{**}	原子炉安全保護系	燃料入口弁	変更なし ^{**}	609.6	72	0.014 ^{**}	72	変更なし ^{**}	燃料入口弁	変更なし ^{**}	609.6	72	0.014 ^{**}	72	変更なし ^{**}	
設備機器名称	均質・ブレディング設備																																																																																																																																													
台数	一式																																																																																																																																													
設置場所	2号発電均質室																																																																																																																																													
臨界管理	核的制限値：濃縮度5%以下																																																																																																																																													
放射線防護	第1類																																																																																																																																													
耐震	第1類 (第1種機器～附属用遮断弁間)																																																																																																																																													
材料・構造 (温度、圧力)	温度：2号均質槽出入口配管カバ内は120℃、電気ヒータによる加熱部は100℃、その他は常温 圧力：2号均質槽出入口配管カバ内は3kgf/cm ² G、その他は大気圧以下																																																																																																																																													
型式																																																																																																																																														
主要寸法	呼び径：15 A～50A 主要設備リストで展開。																																																																																																																																													
主要材料	ステンレス鋼																																																																																																																																													
性能																																																																																																																																														
核燃料物質の状態	気体 UF ₆																																																																																																																																													
その他	(1) UF ₆ の配管中での凝結を防ぐため、UF ₆ 圧力が90 Torrを超える配管及び弁に電気ヒータを巻き加熱する。 2号均質槽出入口配管カバ内配管温度が120℃を超える範囲で、また電気ヒータによる加熱部が90℃を超える範囲で警報を発し、自動的にヒータの電源を切る。本インターロックを図-15に示す。 (2) 弁は、無漏えい弁(ペローシール弁)を用いる。																																																																																																																																													
添付図	図-15																																																																																																																																													
名称 ^{*1}	変更後			変更前																																																																																																																																										
	厚さ	外径	壁厚	厚さ	外径	壁厚																																																																																																																																								
主配管	変更なし	変更なし	変更なし	27.2	48.6	21.7																																																																																																																																								
側管	変更なし	変更なし	変更なし	27.2	48.6	21.7																																																																																																																																								
設備	材料	厚さ (mm)	外径 ^{*1} (mm)	壁厚 (mm)	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (℃)	形状寸法 (mm)																																																																																																																																							
原子炉運転監視系	制御用配管	変更なし ^{**}	609.6	72	0.014 ^{**}	72	変更なし ^{**}																																																																																																																																							
	燃料入口弁	変更なし ^{**}	609.6	72	0.014 ^{**}	72	変更なし ^{**}																																																																																																																																							
原子炉燃料供給系	燃料入口弁	変更なし ^{**}	609.6	72	0.014 ^{**}	72	変更なし ^{**}																																																																																																																																							
	燃料入口弁	変更なし ^{**}	609.6	72	0.014 ^{**}	72	変更なし ^{**}																																																																																																																																							
原子炉制御系	燃料入口弁	変更なし ^{**}	609.6	72	0.014 ^{**}	72	変更なし ^{**}																																																																																																																																							
	燃料入口弁	変更なし ^{**}	609.6	72	0.014 ^{**}	72	変更なし ^{**}																																																																																																																																							
原子炉圧力調整系	燃料入口弁	変更なし ^{**}	609.6	72	0.014 ^{**}	72	変更なし ^{**}																																																																																																																																							
	燃料入口弁	変更なし ^{**}	609.6	72	0.014 ^{**}	72	変更なし ^{**}																																																																																																																																							
原子炉安全保護系	燃料入口弁	変更なし ^{**}	609.6	72	0.014 ^{**}	72	変更なし ^{**}																																																																																																																																							
	燃料入口弁	変更なし ^{**}	609.6	72	0.014 ^{**}	72	変更なし ^{**}																																																																																																																																							

【凡例】

- : 今回の仕様表と既認可仕様表及び要求事項(様式-6,7等)が整合している項目
- : 既認可仕様表のうち、今回の仕様表に反映しない項目(反映しない理由を吹き出しにて記載)
- : 新規制基準に係る新たな要求事項(様式-6,7等)として仕様表に追加した項目
- : 発電炉の要目表のうち、今回の仕様表に反映しない項目(反映しない理由を備考に記載)
- : 補足説明内容を示す部分

仕様表記載例 13 【機種：搬送設備】

既認可の仕様表	仕様表	要求事項の整理	発電炉類似設備要目表	備考																																																																																																																																																																																				
<p>表-1 搬送設備の仕様 (ウラン貯蔵建屋天井走行クレーンA、B、C)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>設備機器名称</td><td>ウラン貯蔵建屋天井走行クレーンA、B、C</td><td style="font-size: small;">区分</td><td>搬送設備</td></tr> <tr><td>台数</td><td colspan="3">3基</td></tr> <tr><td>設置場所</td><td colspan="3">ウラン貯蔵庫</td></tr> <tr><td>臨界管理</td><td colspan="3">――</td></tr> <tr><td>放射線防護</td><td colspan="3">――</td></tr> <tr><td>耐震</td><td colspan="3">第3類</td></tr> <tr><td>材料・構造 (温度、圧力)</td><td colspan="3">――</td></tr> <tr><td>型式</td><td colspan="3">ホイスト式 (定格荷重: 16 t)</td></tr> <tr><td>主要寸法</td><td colspan="3">スパン: 約 10460 mm サドルホイルベース: 約 4800 mm</td></tr> <tr><td>主要材料</td><td colspan="3">炭素鋼 (SS 41)</td></tr> <tr><td>性能</td><td colspan="3">――</td></tr> <tr><td>核燃料物質の状態</td><td colspan="3">――</td></tr> <tr><td>その他</td><td colspan="3">(1) シリンダ類の最下面までの吊上げ高さは、高さ制限機構により、1.2m以下に制限する。 (2) 電源喪失により動力の供給が停止した場合は、そのままの状態ではシリンダ類を保持する。 (3) 耐震評価として、上位波及防止の観点から、第1類の静的地震力を用いてクレーン及びホイストの転倒評価を行う。</td></tr> <tr><td>添付図</td><td colspan="3">図-1、図-7</td></tr> </table> <p>事業変更許可において、本機器は第3類から第1類へ変更したため、記載を削除。</p> <p>添付書類に位置付けを変更したため、記載を削除。</p> <p>該当しないため、記載を削除。</p> <p>該当しないため、記載を削除。</p>	設備機器名称	ウラン貯蔵建屋天井走行クレーンA、B、C	区分	搬送設備	台数	3基			設置場所	ウラン貯蔵庫			臨界管理	――			放射線防護	――			耐震	第3類			材料・構造 (温度、圧力)	――			型式	ホイスト式 (定格荷重: 16 t)			主要寸法	スパン: 約 10460 mm サドルホイルベース: 約 4800 mm			主要材料	炭素鋼 (SS 41)			性能	――			核燃料物質の状態	――			その他	(1) シリンダ類の最下面までの吊上げ高さは、高さ制限機構により、1.2m以下に制限する。 (2) 電源喪失により動力の供給が停止した場合は、そのままの状態ではシリンダ類を保持する。 (3) 耐震評価として、上位波及防止の観点から、第1類の静的地震力を用いてクレーン及びホイストの転倒評価を行う。			添付図	図-1、図-7			<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>名称^{*1}</td><td>―</td><td>天井走行クレーン A, B, C^{*7, *8}</td><td>変更後</td></tr> <tr><td>種類^{*2}</td><td>―</td><td>ホイスト式</td><td>変更後</td></tr> <tr><td>容量 (定格荷重)</td><td>t</td><td>16</td><td>変更後</td></tr> <tr><td>臨界管理</td><td>―</td><td>―^{*9}</td><td>変更なし</td></tr> <tr><td>主要寸法</td><td>―</td><td>―</td><td>変更なし</td></tr> <tr><td>走行レール間距離^{*3}</td><td>mm</td><td>10460^{*10}</td><td>変更なし</td></tr> <tr><td>サドルホイルベース</td><td>mm</td><td>4800^{*10}</td><td>変更なし</td></tr> <tr><td>高さ^{*4}</td><td>mm</td><td>1679^{*10 *11}</td><td>変更なし</td></tr> <tr><td>横行レール間距離</td><td>mm</td><td>3080^{*10 *11}</td><td>変更なし</td></tr> <tr><td>ホイストホイルベース</td><td>mm</td><td>1040^{*10 *11}</td><td>変更なし</td></tr> <tr><td>ホイスト高さ</td><td>mm</td><td>979^{*10 *11}</td><td>変更なし</td></tr> <tr><td>主要材料</td><td>―</td><td>炭素鋼^{*12}</td><td>変更後</td></tr> <tr><td>個数^{*5}</td><td>基</td><td>3</td><td>変更後</td></tr> <tr><td>取付箇所</td><td>システム名 (ライン名)</td><td>―^{*13}</td><td>変更後</td></tr> <tr><td>取付箇所</td><td>設置床 (室名称)</td><td>A ウラン貯蔵室</td><td>変更後</td></tr> </table> <p>注記</p> <ul style="list-style-type: none"> *1: 記載の適正化。既設工認には「設備機器名称」と記載。 *2: 記載の適正化。既設工認には「型式」と記載。 *3: 記載の適正化。既設工認には「スパン」と記載。 *4: 走行レール上面からホイスト上面までの高さを示す。 *5: 記載の適正化。既設工認には「台数」と記載。 *6: 記載の適正化。既設工認には「設置場所」と記載。 *7: 本機器は、吊上げ高さを床より 1.2 m 以下に制限する機能及び外部電源喪失時に吊上げ状態を維持する保持機能を有する設計とする。 *8: その他の構成機器として、吊り具を有する設計とする。 *9: シリンダ類の運転中に他のシリンダ類と接触した場合においても臨界とならないことから臨界管理の対象外であるため「―」とする。 *10: 公称値を示す。 *11: 既設工認に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は設計図書による。 *12: UF₆を内包する機器ではなく、UF₆を閉じ込めるための耐食性、耐圧強度を必要としないため、JIS規格番号は記載しない。 *13: システム区別を必要としないため「―」とする。 	名称 ^{*1}	―	天井走行クレーン A, B, C ^{*7, *8}	変更後	種類 ^{*2}	―	ホイスト式	変更後	容量 (定格荷重)	t	16	変更後	臨界管理	―	― ^{*9}	変更なし	主要寸法	―	―	変更なし	走行レール間距離 ^{*3}	mm	10460 ^{*10}	変更なし	サドルホイルベース	mm	4800 ^{*10}	変更なし	高さ ^{*4}	mm	1679 ^{*10 *11}	変更なし	横行レール間距離	mm	3080 ^{*10 *11}	変更なし	ホイストホイルベース	mm	1040 ^{*10 *11}	変更なし	ホイスト高さ	mm	979 ^{*10 *11}	変更なし	主要材料	―	炭素鋼 ^{*12}	変更後	個数 ^{*5}	基	3	変更後	取付箇所	システム名 (ライン名)	― ^{*13}	変更後	取付箇所	設置床 (室名称)	A ウラン貯蔵室	変更後	<p>技術標準</p> <p>機要要求② 様式-6,7</p> <p>第十一条 〇火災の発生防止 ・UF₆を内包する機器以外の機器については、可能な限り不燃性又は難燃性の材料 (鋼材) を使用し、火災の発生を防止する設計とする。</p> <p>第十六条 〇搬送設備 UF₆シリンダ類及び付着ウラン回収容器の移動に用いる天井走行クレーン、シリンダ搬送台車及びシリンダ搬送入台車は、これらのシリンダ等の重量に対して十分な強度を有する設計とする。 天井走行クレーンには UF₆シリンダ類及び付着ウラン回収容器を、落下試験により閉じ込め性を維持できることを確認した高さ (シリンダ 1 段積みで 1.2 m 及びシリンダ 2 段積みで 1.85 m) 以上に吊り上げることを防止する吊上げ高さ制限インターロック及び電源喪失時に吊上げ状態を維持する保持機能を設ける設計とする。</p> <p>主な仕様 (詳細設計)</p> <p>主要材料</p> <p>容量 (定格荷重)</p> <p>吊上げ制限高さ 吊上げ状態維持</p>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>名</td><td colspan="2">原簿建屋クレーン</td><td>変更後</td></tr> <tr><td>種類</td><td colspan="2">天井走行式</td><td>変更後</td></tr> <tr><td>主</td><td>巻</td><td>t</td><td>125</td></tr> <tr><td>補</td><td>巻</td><td>t</td><td>5</td></tr> <tr><td>モノレールホイスト</td><td>t</td><td></td><td>10</td></tr> <tr><td>走行レール間距離^{*1}</td><td>mm</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>クレーン本体ガード距離</td><td>mm</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>高さ</td><td>mm</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>クレーン本体ガード幅</td><td>mm</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>クレーン本体ガード高さ</td><td>mm</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>ガード</td><td>―</td><td></td><td>SM50A^{*3}</td></tr> <tr><td>個</td><td>数</td><td>―</td><td>1</td></tr> <tr><td>系統名 (ライン名)</td><td colspan="2">―</td><td>変更なし</td></tr> <tr><td>設置床</td><td>―</td><td></td><td>Fl. 54.50 m^{*2}</td></tr> <tr><td>溢水防護上の区画番号</td><td>―</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>溢水防護上の配慮が必要な高さ</td><td>―</td><td></td><td></td></tr> </table> <p>注記</p> <ul style="list-style-type: none"> *1: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「スパン」と記載。 *2: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「―」と記載。 *3: 公称値を示す。 *4: 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。 *5: 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、平成元年4月26日付け発管業発第37号にて届け出した工事計画の添付書類「1-2-1 原簿建屋クレーンの耐震性についての計算書」による。 	名	原簿建屋クレーン		変更後	種類	天井走行式		変更後	主	巻	t	125	補	巻	t	5	モノレールホイスト	t		10	走行レール間距離 ^{*1}	mm			クレーン本体ガード距離	mm			高さ	mm			クレーン本体ガード幅	mm			クレーン本体ガード高さ	mm			ガード	―		SM50A ^{*3}	個	数	―	1	系統名 (ライン名)	―		変更なし	設置床	―		Fl. 54.50 m ^{*2}	溢水防護上の区画番号	―			溢水防護上の配慮が必要な高さ	―			<p>【補足説明】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・評価に必要な数値を記載する方針としていることから、耐震設計上評価している部位について記載を追加する。 <p>溢水防護設計の対象外の機器であるため、溢水に係る項目 (区画、高さ等) は記載していない。</p>
設備機器名称	ウラン貯蔵建屋天井走行クレーンA、B、C	区分	搬送設備																																																																																																																																																																																					
台数	3基																																																																																																																																																																																							
設置場所	ウラン貯蔵庫																																																																																																																																																																																							
臨界管理	――																																																																																																																																																																																							
放射線防護	――																																																																																																																																																																																							
耐震	第3類																																																																																																																																																																																							
材料・構造 (温度、圧力)	――																																																																																																																																																																																							
型式	ホイスト式 (定格荷重: 16 t)																																																																																																																																																																																							
主要寸法	スパン: 約 10460 mm サドルホイルベース: 約 4800 mm																																																																																																																																																																																							
主要材料	炭素鋼 (SS 41)																																																																																																																																																																																							
性能	――																																																																																																																																																																																							
核燃料物質の状態	――																																																																																																																																																																																							
その他	(1) シリンダ類の最下面までの吊上げ高さは、高さ制限機構により、1.2m以下に制限する。 (2) 電源喪失により動力の供給が停止した場合は、そのままの状態ではシリンダ類を保持する。 (3) 耐震評価として、上位波及防止の観点から、第1類の静的地震力を用いてクレーン及びホイストの転倒評価を行う。																																																																																																																																																																																							
添付図	図-1、図-7																																																																																																																																																																																							
名称 ^{*1}	―	天井走行クレーン A, B, C ^{*7, *8}	変更後																																																																																																																																																																																					
種類 ^{*2}	―	ホイスト式	変更後																																																																																																																																																																																					
容量 (定格荷重)	t	16	変更後																																																																																																																																																																																					
臨界管理	―	― ^{*9}	変更なし																																																																																																																																																																																					
主要寸法	―	―	変更なし																																																																																																																																																																																					
走行レール間距離 ^{*3}	mm	10460 ^{*10}	変更なし																																																																																																																																																																																					
サドルホイルベース	mm	4800 ^{*10}	変更なし																																																																																																																																																																																					
高さ ^{*4}	mm	1679 ^{*10 *11}	変更なし																																																																																																																																																																																					
横行レール間距離	mm	3080 ^{*10 *11}	変更なし																																																																																																																																																																																					
ホイストホイルベース	mm	1040 ^{*10 *11}	変更なし																																																																																																																																																																																					
ホイスト高さ	mm	979 ^{*10 *11}	変更なし																																																																																																																																																																																					
主要材料	―	炭素鋼 ^{*12}	変更後																																																																																																																																																																																					
個数 ^{*5}	基	3	変更後																																																																																																																																																																																					
取付箇所	システム名 (ライン名)	― ^{*13}	変更後																																																																																																																																																																																					
取付箇所	設置床 (室名称)	A ウラン貯蔵室	変更後																																																																																																																																																																																					
名	原簿建屋クレーン		変更後																																																																																																																																																																																					
種類	天井走行式		変更後																																																																																																																																																																																					
主	巻	t	125																																																																																																																																																																																					
補	巻	t	5																																																																																																																																																																																					
モノレールホイスト	t		10																																																																																																																																																																																					
走行レール間距離 ^{*1}	mm																																																																																																																																																																																							
クレーン本体ガード距離	mm																																																																																																																																																																																							
高さ	mm																																																																																																																																																																																							
クレーン本体ガード幅	mm																																																																																																																																																																																							
クレーン本体ガード高さ	mm																																																																																																																																																																																							
ガード	―		SM50A ^{*3}																																																																																																																																																																																					
個	数	―	1																																																																																																																																																																																					
系統名 (ライン名)	―		変更なし																																																																																																																																																																																					
設置床	―		Fl. 54.50 m ^{*2}																																																																																																																																																																																					
溢水防護上の区画番号	―																																																																																																																																																																																							
溢水防護上の配慮が必要な高さ	―																																																																																																																																																																																							

※赤字で示した箇所は、設工認申請書の記載の充実化。適正化を図る箇所を示す。

【凡例】

- : 今回の仕様表と既認可仕様表及び要求事項 (様式-6,7 等) が整合している項目
- : 既認可仕様表のうち、今回の仕様表に反映しない項目 (反映しない理由を吹き出しにて記載)
- : 新規制基準に係る新たな要求事項 (様式-6,7 等) として仕様表に追加した項目
- : 発電炉の要目表のうち、今回の仕様表に反映しない項目 (反映しない理由を備考に記載)
- : 補足説明内容を示す部分

仕様表記載例 14 【機種：機械装置（2/2）】

既認可の仕様表	仕様表	要求事項の整理	発電炉類似設備要目表	備考						
		<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="1386 287 1466 338">技術基準</th> <th data-bbox="1466 287 1813 338">機能要求② 様式-6,7</th> <th data-bbox="1813 287 1979 338">主な仕様 (詳細設計)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="1386 338 1466 443">第十八条 警報設備 等</td> <td data-bbox="1466 338 1813 1417"> <p>(前ページのつづき)</p> <ul style="list-style-type: none"> 均質槽、製品シリンダ槽及び原料シリンダ槽のUF₆回収時に、UF₆シリンダ類への過充填を防止するため、最大充填量に達する前に警報を発するとともに、自動的に充填を停止するインターロックを設ける。 減圧槽が故障した場合に、自動的に均質槽の加熱を停止する減圧槽故障による均質槽加熱停止インターロックを設ける。 中間製品容器からのUF₆の漏えい等により均質槽内の圧力が通常使用圧力より有意に上昇した場合に、自動的に均質槽の加熱を停止する均質槽槽内圧力異常高による運転停止のインターロックを設ける。 局所排風機が2台停止した場合に、均質槽及びサンプル小分け装置の加熱を停止する2号局所排風機2台停止による加熱停止インターロックを設ける。 槽間のガス移送時に、回収側の槽類の圧力が上昇(ただし大気圧以下)した場合に、移送元の移送停止及び回収側の槽の回収を停止する回収側槽類圧力異常上昇によるガス移送停止のインターロックを設ける。 地震発生時の液化の自動停止操作に替えて、第1類に求められる地震力を超えない程度の地震加速度(震度5強～6弱程度(第2類の地震力に相当するおおよそ250Gal程度))を検知して警報を発し、現場の従事者を速やかに退避させるとともに、自動的に緊急遮断弁(均質槽元弁)及び局所排気ダクトのダンパを閉じ、均質槽、製品シリンダ槽、原料シリンダ槽、均質バージ系コールドトラップ及びサンプル小分け装置の加熱を停止し、UF₆を閉じ込めるインターロックを設ける。 UF₆が漏えいした場合に、工程用モニタにより早期に検知し、警報を発するとともに、自動的に緊急遮断弁及び局所排気ダクトのダンパを閉止するとともに、均質槽及びサンプル小分け装置の加熱を停止し、UF₆を配管カバー及びその排気系統内に閉じ込める工程用モニタHF濃度高によるUF₆漏えい拡大防止のインターロックを設ける。 </td> <td data-bbox="1813 338 1979 443"> 検出器の種類 計測範囲 警報動作範囲 </td> </tr> </tbody> </table>	技術基準	機能要求② 様式-6,7	主な仕様 (詳細設計)	第十八条 警報設備 等	<p>(前ページのつづき)</p> <ul style="list-style-type: none"> 均質槽、製品シリンダ槽及び原料シリンダ槽のUF₆回収時に、UF₆シリンダ類への過充填を防止するため、最大充填量に達する前に警報を発するとともに、自動的に充填を停止するインターロックを設ける。 減圧槽が故障した場合に、自動的に均質槽の加熱を停止する減圧槽故障による均質槽加熱停止インターロックを設ける。 中間製品容器からのUF₆の漏えい等により均質槽内の圧力が通常使用圧力より有意に上昇した場合に、自動的に均質槽の加熱を停止する均質槽槽内圧力異常高による運転停止のインターロックを設ける。 局所排風機が2台停止した場合に、均質槽及びサンプル小分け装置の加熱を停止する2号局所排風機2台停止による加熱停止インターロックを設ける。 槽間のガス移送時に、回収側の槽類の圧力が上昇(ただし大気圧以下)した場合に、移送元の移送停止及び回収側の槽の回収を停止する回収側槽類圧力異常上昇によるガス移送停止のインターロックを設ける。 地震発生時の液化の自動停止操作に替えて、第1類に求められる地震力を超えない程度の地震加速度(震度5強～6弱程度(第2類の地震力に相当するおおよそ250Gal程度))を検知して警報を発し、現場の従事者を速やかに退避させるとともに、自動的に緊急遮断弁(均質槽元弁)及び局所排気ダクトのダンパを閉じ、均質槽、製品シリンダ槽、原料シリンダ槽、均質バージ系コールドトラップ及びサンプル小分け装置の加熱を停止し、UF₆を閉じ込めるインターロックを設ける。 UF₆が漏えいした場合に、工程用モニタにより早期に検知し、警報を発するとともに、自動的に緊急遮断弁及び局所排気ダクトのダンパを閉止するとともに、均質槽及びサンプル小分け装置の加熱を停止し、UF₆を配管カバー及びその排気系統内に閉じ込める工程用モニタHF濃度高によるUF₆漏えい拡大防止のインターロックを設ける。 	検出器の種類 計測範囲 警報動作範囲		
技術基準	機能要求② 様式-6,7	主な仕様 (詳細設計)								
第十八条 警報設備 等	<p>(前ページのつづき)</p> <ul style="list-style-type: none"> 均質槽、製品シリンダ槽及び原料シリンダ槽のUF₆回収時に、UF₆シリンダ類への過充填を防止するため、最大充填量に達する前に警報を発するとともに、自動的に充填を停止するインターロックを設ける。 減圧槽が故障した場合に、自動的に均質槽の加熱を停止する減圧槽故障による均質槽加熱停止インターロックを設ける。 中間製品容器からのUF₆の漏えい等により均質槽内の圧力が通常使用圧力より有意に上昇した場合に、自動的に均質槽の加熱を停止する均質槽槽内圧力異常高による運転停止のインターロックを設ける。 局所排風機が2台停止した場合に、均質槽及びサンプル小分け装置の加熱を停止する2号局所排風機2台停止による加熱停止インターロックを設ける。 槽間のガス移送時に、回収側の槽類の圧力が上昇(ただし大気圧以下)した場合に、移送元の移送停止及び回収側の槽の回収を停止する回収側槽類圧力異常上昇によるガス移送停止のインターロックを設ける。 地震発生時の液化の自動停止操作に替えて、第1類に求められる地震力を超えない程度の地震加速度(震度5強～6弱程度(第2類の地震力に相当するおおよそ250Gal程度))を検知して警報を発し、現場の従事者を速やかに退避させるとともに、自動的に緊急遮断弁(均質槽元弁)及び局所排気ダクトのダンパを閉じ、均質槽、製品シリンダ槽、原料シリンダ槽、均質バージ系コールドトラップ及びサンプル小分け装置の加熱を停止し、UF₆を閉じ込めるインターロックを設ける。 UF₆が漏えいした場合に、工程用モニタにより早期に検知し、警報を発するとともに、自動的に緊急遮断弁及び局所排気ダクトのダンパを閉止するとともに、均質槽及びサンプル小分け装置の加熱を停止し、UF₆を配管カバー及びその排気系統内に閉じ込める工程用モニタHF濃度高によるUF₆漏えい拡大防止のインターロックを設ける。 	検出器の種類 計測範囲 警報動作範囲								

【凡例】

- : 今回の仕様表と既認可仕様表及び要求事項(様式-6,7等)が整合している項目
- : 既認可仕様表のうち、今回の仕様表に反映しない項目(反映しない理由を吹き出しにて記載)
- : 新規制基準に係る新たな要求事項(様式-6,7等)として仕様表に追加した項目
- : 発電炉の要目表のうち、今回の仕様表に反映しない項目(反映しない理由を備考に記載)
- : 補足説明内容を示す部分

仕様表記載例 15 【機種：核物質等取扱ボックス】

既認可の仕様表	仕様表	要求事項の整理	発電炉類似設備要目表	備考																																																																																																			
<p>表-2 その他の主要な設備の仕様 (除染ハウス)</p> <table border="1"> <tr> <td>設備機器名称</td> <td>除染ハウス</td> <td>分</td> <td>除染設備</td> </tr> <tr> <td>台数</td> <td>一式</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>設置場所</td> <td>除染室</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>臨界管理</td> <td></td> <td></td> <td>主要設備リストで展開。</td> </tr> <tr> <td>放射線防護</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>耐震</td> <td>第3類</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>材料・構造 (温度、圧力)</td> <td>温度：常温 圧力：—</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>型式</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>主要寸法</td> <td>幅：約7100mm 奥行：約4000mm 高さ：約4200mm</td> <td></td> <td>該当しないため、記載を削除。</td> </tr> <tr> <td>主要材料</td> <td>炭素鋼 (SS41)</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>性能</td> <td>排気フード開口部の風速：0.5 m/s以上</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>核燃料物質の状態</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>ケミカルトラップ (NaF) のNaF交換作業、その他の機器の除染作業を行うための作業場の囲いとして設置する。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>添付図</td> <td>図-2、図-5</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>該当しないため、記載を削除。</p> <p>基本設計方針で展開。</p> <p>添付書類に位置付けを変更したため、記載を削除</p>	設備機器名称	除染ハウス	分	除染設備	台数	一式			設置場所	除染室			臨界管理			主要設備リストで展開。	放射線防護				耐震	第3類			材料・構造 (温度、圧力)	温度：常温 圧力：—			型式				主要寸法	幅：約7100mm 奥行：約4000mm 高さ：約4200mm		該当しないため、記載を削除。	主要材料	炭素鋼 (SS41)			性能	排気フード開口部の風速：0.5 m/s以上			核燃料物質の状態				その他	ケミカルトラップ (NaF) のNaF交換作業、その他の機器の除染作業を行うための作業場の囲いとして設置する。			添付図	図-2、図-5			<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>変更前</th> <th>変更後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>名称^{*1}</td> <td>—</td> <td>除染ハウス</td> </tr> <tr> <td>種類^{*2}</td> <td>—^{*6}</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>開口部風速 (排気フード)^{*3}</td> <td>m/s</td> <td>0.5以上</td> </tr> <tr> <td>臨界管理</td> <td>—</td> <td>—^{*7}</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">主要寸法</td> <td>たて</td> <td>mm</td> <td>4000^{*8}</td> </tr> <tr> <td>横</td> <td>mm</td> <td>7085^{*8}</td> </tr> <tr> <td>高さ</td> <td>mm</td> <td>4150^{*8}</td> </tr> <tr> <td>主要材料</td> <td>—</td> <td>炭素鋼^{*9}</td> </tr> <tr> <td>個数^{*4}</td> <td>式</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">取付箇所</td> <td>系統名 (ライン名)</td> <td>—^{*10}</td> </tr> <tr> <td>設置床 (室名称)^{*5}</td> <td>—</td> <td>除染室</td> </tr> </tbody> </table> <p>注記 *1：記載の適正化。既設工認には「設備機器名称」と記載。 *2：記載の適正化。既設工認には「型式」と記載。 *3：記載の適正化。既設工認には「性能」と記載。 *4：記載の適正化。既設工認には「台数」と記載。 *5：記載の適正化。既設工認には「設置場所」と記載。 *6：種別を必要としないため「—」とする。 *7：本機器は、UF₆を取り扱う機器ではなく、臨界管理の対象外であるため「—」とする。 *8：公称値を示す。 *9：UF₆を内包する機器ではなく、UF₆を閉じ込めるための耐食性、耐圧強度を必要としないため、JIS規格番号は記載しない。 *10：系統区別を必要としないため「—」とする。 *11：除染ハウス内部の排気フードについては、これまでの機器点検等の実績を踏まえ、使用する用途がないこと及び今後も使用予定がないことから撤去する。</p>		変更前	変更後	名称 ^{*1}	—	除染ハウス	種類 ^{*2}	— ^{*6}	—	開口部風速 (排気フード) ^{*3}	m/s	0.5以上	臨界管理	—	— ^{*7}	主要寸法	たて	mm	4000 ^{*8}	横	mm	7085 ^{*8}	高さ	mm	4150 ^{*8}	主要材料	—	炭素鋼 ^{*9}	個数 ^{*4}	式	1	取付箇所	系統名 (ライン名)	— ^{*10}	設置床 (室名称) ^{*5}	—	除染室	<table border="1"> <thead> <tr> <th>技術基準</th> <th>機能要求②</th> <th>主な仕様 (詳細設計)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第十一条 火災等に よる損傷 の防止</td> <td>様式-6,7 ○火災の発生防止 ・UF₆を内包する機器以外の機器については、可能な限り不燃性又は難燃性の材料 (鋼材) を使用し、火災の発生を防止する設計とする。</td> <td>主要材料</td> </tr> </tbody> </table> <p>【補足説明】 ・排気フードは、機器点検等の作業中の実績 (空気中の放射性物質濃度：×10⁻⁶ ~ ×10⁻⁸ Bq/cm³程度) から放射性物質の飛散がほとんどないこと及び従事者に対し必要な放射線防護措置 (全面マスク、タイベック着用等) が講じられていることから、排気フードを使用する用途がなく、今後も使用予定がないことから排気フードを撤去する。</p>	技術基準	機能要求②	主な仕様 (詳細設計)	第十一条 火災等に よる損傷 の防止	様式-6,7 ○火災の発生防止 ・UF ₆ を内包する機器以外の機器については、可能な限り不燃性又は難燃性の材料 (鋼材) を使用し、火災の発生を防止する設計とする。	主要材料	<p><発電炉要目表なし></p>	
設備機器名称	除染ハウス	分	除染設備																																																																																																				
台数	一式																																																																																																						
設置場所	除染室																																																																																																						
臨界管理			主要設備リストで展開。																																																																																																				
放射線防護																																																																																																							
耐震	第3類																																																																																																						
材料・構造 (温度、圧力)	温度：常温 圧力：—																																																																																																						
型式																																																																																																							
主要寸法	幅：約7100mm 奥行：約4000mm 高さ：約4200mm		該当しないため、記載を削除。																																																																																																				
主要材料	炭素鋼 (SS41)																																																																																																						
性能	排気フード開口部の風速：0.5 m/s以上																																																																																																						
核燃料物質の状態																																																																																																							
その他	ケミカルトラップ (NaF) のNaF交換作業、その他の機器の除染作業を行うための作業場の囲いとして設置する。																																																																																																						
添付図	図-2、図-5																																																																																																						
	変更前	変更後																																																																																																					
名称 ^{*1}	—	除染ハウス																																																																																																					
種類 ^{*2}	— ^{*6}	—																																																																																																					
開口部風速 (排気フード) ^{*3}	m/s	0.5以上																																																																																																					
臨界管理	—	— ^{*7}																																																																																																					
主要寸法	たて	mm	4000 ^{*8}																																																																																																				
	横	mm	7085 ^{*8}																																																																																																				
	高さ	mm	4150 ^{*8}																																																																																																				
主要材料	—	炭素鋼 ^{*9}																																																																																																					
個数 ^{*4}	式	1																																																																																																					
取付箇所	系統名 (ライン名)	— ^{*10}																																																																																																					
	設置床 (室名称) ^{*5}	—	除染室																																																																																																				
技術基準	機能要求②	主な仕様 (詳細設計)																																																																																																					
第十一条 火災等に よる損傷 の防止	様式-6,7 ○火災の発生防止 ・UF ₆ を内包する機器以外の機器については、可能な限り不燃性又は難燃性の材料 (鋼材) を使用し、火災の発生を防止する設計とする。	主要材料																																																																																																					

【凡例】

- : 今回の仕様表と既認可仕様表及び要求事項 (様式-6,7等) が整合している項目
- : 既認可仕様表のうち、今回の仕様表に反映しない項目 (反映しない理由を吹き出しにて記載)
- : 新規規制基準に係る新たな要求事項 (様式-6,7等) として仕様表に追加した項目
- : 発電炉の要目表のうち、今回の仕様表に反映しない項目 (反映しない理由を備考に記載)
- : 補足説明内容を示す部分

仕様表記載例 22a 【機種：計装／放管設備（計測装置）】

既認可の仕様表	仕様表	要求事項の整理	発電炉類似設備要目表	備考																																																																													
<p style="text-align: center;">【既認可仕様表の該当無し】</p> <p>機器のその他仕様として申請していたため、検出器単体での仕様表の該当はなし。</p>	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; text-align: center;">変更前</td> <td style="width: 50%; text-align: center;">変更後</td> </tr> <tr> <td>均質槽内圧力計*1</td> <td>均質槽内圧力計*1</td> </tr> <tr> <td>検出器</td> <td>検出器</td> </tr> <tr> <td>-100 ~ 300</td> <td>-100 ~ 300</td> </tr> <tr> <td>通常使用圧力より有意な上昇と判断される圧力 (kPaG) 以下</td> <td>通常使用圧力より有意な上昇と判断される圧力 (kPaG) 以下</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>均質槽内圧力</td> <td>均質槽内圧力</td> </tr> <tr> <td>2号発回均質室</td> <td>2号発回均質室</td> </tr> </table> <p>注記 *1：本機器は、既存の設備である。</p>	変更前	変更後	均質槽内圧力計*1	均質槽内圧力計*1	検出器	検出器	-100 ~ 300	-100 ~ 300	通常使用圧力より有意な上昇と判断される圧力 (kPaG) 以下	通常使用圧力より有意な上昇と判断される圧力 (kPaG) 以下	6	6	均質槽内圧力	均質槽内圧力	2号発回均質室	2号発回均質室	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <th>技術基準</th> <th>機能要求② 様式-6, 7</th> <th>主な仕様 (詳細設計)</th> </tr> <tr> <td>第十条 閉じ込め の機能</td> <td>○漏えい拡大防止並びに影響軽減 ウランを内包する設備及び機器から放射性物質が漏えいした場合に、その漏えいを検知できる設計とし、漏えいの拡大を防止するためのインターロックの設置、運転員による漏えい対処等により可能な限り放射性物質を建屋内に閉じ込める設計とする。</td> <td>検出器の種類 計測範囲 警報動作範囲</td> </tr> <tr> <td>第十八条 警報設備 等</td> <td>加熱中に原料シリンダ、製品シリンダ、劣化ウランの詰替えに用いる廃品シリンダ及び中間製品容器内の圧力又は温度が異常に上昇した場合は、UF₆を大気圧未満で取り扱う場合においては、大気圧を超えない範囲又は管理温度を超えない範囲で、均質槽で中間製品容器内のUF₆の液化を行う場合においては液化操作時の管理圧力又は管理温度を超えない範囲で、警報を発するとともに自動的に熱水の供給を停止する圧力異常高又は温度異常高による加熱停止のインターロックを設ける。</td> <td>検出器の種類 計測範囲 警報動作範囲</td> </tr> </table>	技術基準	機能要求② 様式-6, 7	主な仕様 (詳細設計)	第十条 閉じ込め の機能	○漏えい拡大防止並びに影響軽減 ウランを内包する設備及び機器から放射性物質が漏えいした場合に、その漏えいを検知できる設計とし、漏えいの拡大を防止するためのインターロックの設置、運転員による漏えい対処等により可能な限り放射性物質を建屋内に閉じ込める設計とする。	検出器の種類 計測範囲 警報動作範囲	第十八条 警報設備 等	加熱中に原料シリンダ、製品シリンダ、劣化ウランの詰替えに用いる廃品シリンダ及び中間製品容器内の圧力又は温度が異常に上昇した場合は、UF ₆ を大気圧未満で取り扱う場合においては、大気圧を超えない範囲又は管理温度を超えない範囲で、均質槽で中間製品容器内のUF ₆ の液化を行う場合においては液化操作時の管理圧力又は管理温度を超えない範囲で、警報を発するとともに自動的に熱水の供給を停止する圧力異常高又は温度異常高による加熱停止のインターロックを設ける。	検出器の種類 計測範囲 警報動作範囲	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <th colspan="2">変更前</th> <th colspan="2">変更後</th> </tr> <tr> <td>格納容器内水素濃度*1</td> <td>格納容器内水素濃度*1</td> <td>格納容器内水素濃度</td> <td>格納容器内水素濃度</td> </tr> <tr> <td>熱伝導式水素検出器</td> <td>熱伝導式水素検出器</td> <td>熱伝導式水素検出器</td> <td>熱伝導式水素検出器</td> </tr> <tr> <td>0~20</td> <td>0~20</td> <td>0~20</td> <td>0~20</td> </tr> <tr> <td>0~100</td> <td>0~100</td> <td>0~100</td> <td>0~100</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>格納容器内水素濃度</td> <td>格納容器内水素濃度</td> <td>格納容器内水素濃度</td> <td>格納容器内水素濃度</td> </tr> <tr> <td>EL. 20.30 m*2</td> <td>EL. 20.30 m*2</td> <td>EL. 20.30 m*2</td> <td>EL. 20.30 m*2</td> </tr> <tr> <td>EL. 29.00 m*3</td> <td>EL. 29.00 m*3</td> <td>EL. 29.00 m*3</td> <td>EL. 29.00 m*3</td> </tr> <tr> <td>RB-3-1*2</td> <td>RB-3-1*2</td> <td>RB-3-1*2</td> <td>RB-3-1*2</td> </tr> <tr> <td>RB-4-2*3</td> <td>RB-4-2*3</td> <td>RB-4-2*3</td> <td>RB-4-2*3</td> </tr> <tr> <td>EL. 20.30 m 以上*2</td> <td>EL. 20.30 m 以上*2</td> <td>EL. 20.30 m 以上*2</td> <td>EL. 20.30 m 以上*2</td> </tr> <tr> <td>EL. 29.00 m 以上*3</td> <td>EL. 29.00 m 以上*3</td> <td>EL. 29.00 m 以上*3</td> <td>EL. 29.00 m 以上*3</td> </tr> </table> <p>注記 *1：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。 *2：対象計器は、H2E-D23-N002A。 *3：対象計器は、H2E-D23-N002B。</p>	変更前		変更後		格納容器内水素濃度*1	格納容器内水素濃度*1	格納容器内水素濃度	格納容器内水素濃度	熱伝導式水素検出器	熱伝導式水素検出器	熱伝導式水素検出器	熱伝導式水素検出器	0~20	0~20	0~20	0~20	0~100	0~100	0~100	0~100	2	2	2	2	格納容器内水素濃度	格納容器内水素濃度	格納容器内水素濃度	格納容器内水素濃度	EL. 20.30 m*2	EL. 20.30 m*2	EL. 20.30 m*2	EL. 20.30 m*2	EL. 29.00 m*3	EL. 29.00 m*3	EL. 29.00 m*3	EL. 29.00 m*3	RB-3-1*2	RB-3-1*2	RB-3-1*2	RB-3-1*2	RB-4-2*3	RB-4-2*3	RB-4-2*3	RB-4-2*3	EL. 20.30 m 以上*2	EL. 20.30 m 以上*2	EL. 20.30 m 以上*2	EL. 20.30 m 以上*2	EL. 29.00 m 以上*3	EL. 29.00 m 以上*3	EL. 29.00 m 以上*3	EL. 29.00 m 以上*3	<p>溢水防護設計の対象外の機器であるため、溢水に係る項目（区画、高さ等）は記載していない。</p>
変更前	変更後																																																																																
均質槽内圧力計*1	均質槽内圧力計*1																																																																																
検出器	検出器																																																																																
-100 ~ 300	-100 ~ 300																																																																																
通常使用圧力より有意な上昇と判断される圧力 (kPaG) 以下	通常使用圧力より有意な上昇と判断される圧力 (kPaG) 以下																																																																																
6	6																																																																																
均質槽内圧力	均質槽内圧力																																																																																
2号発回均質室	2号発回均質室																																																																																
技術基準	機能要求② 様式-6, 7	主な仕様 (詳細設計)																																																																															
第十条 閉じ込め の機能	○漏えい拡大防止並びに影響軽減 ウランを内包する設備及び機器から放射性物質が漏えいした場合に、その漏えいを検知できる設計とし、漏えいの拡大を防止するためのインターロックの設置、運転員による漏えい対処等により可能な限り放射性物質を建屋内に閉じ込める設計とする。	検出器の種類 計測範囲 警報動作範囲																																																																															
第十八条 警報設備 等	加熱中に原料シリンダ、製品シリンダ、劣化ウランの詰替えに用いる廃品シリンダ及び中間製品容器内の圧力又は温度が異常に上昇した場合は、UF ₆ を大気圧未満で取り扱う場合においては、大気圧を超えない範囲又は管理温度を超えない範囲で、均質槽で中間製品容器内のUF ₆ の液化を行う場合においては液化操作時の管理圧力又は管理温度を超えない範囲で、警報を発するとともに自動的に熱水の供給を停止する圧力異常高又は温度異常高による加熱停止のインターロックを設ける。	検出器の種類 計測範囲 警報動作範囲																																																																															
変更前		変更後																																																																															
格納容器内水素濃度*1	格納容器内水素濃度*1	格納容器内水素濃度	格納容器内水素濃度																																																																														
熱伝導式水素検出器	熱伝導式水素検出器	熱伝導式水素検出器	熱伝導式水素検出器																																																																														
0~20	0~20	0~20	0~20																																																																														
0~100	0~100	0~100	0~100																																																																														
2	2	2	2																																																																														
格納容器内水素濃度	格納容器内水素濃度	格納容器内水素濃度	格納容器内水素濃度																																																																														
EL. 20.30 m*2	EL. 20.30 m*2	EL. 20.30 m*2	EL. 20.30 m*2																																																																														
EL. 29.00 m*3	EL. 29.00 m*3	EL. 29.00 m*3	EL. 29.00 m*3																																																																														
RB-3-1*2	RB-3-1*2	RB-3-1*2	RB-3-1*2																																																																														
RB-4-2*3	RB-4-2*3	RB-4-2*3	RB-4-2*3																																																																														
EL. 20.30 m 以上*2	EL. 20.30 m 以上*2	EL. 20.30 m 以上*2	EL. 20.30 m 以上*2																																																																														
EL. 29.00 m 以上*3	EL. 29.00 m 以上*3	EL. 29.00 m 以上*3	EL. 29.00 m 以上*3																																																																														

【凡例】

- ：今回の仕様表と既認可仕様表及び要求事項（様式-6, 7 等）が整合している項目
- ：既認可仕様表のうち、今回の仕様表に反映しない項目（反映しない理由を吹き出しにて記載）
- ：新規制基準に係る新たな要求事項（様式-6, 7 等）として仕様表に追加した項目
- ：発電炉の要目表のうち、今回の仕様表に反映しない項目（反映しない理由を備考に記載）
- ：補足説明内容を示す部分

仕様表記載例 23e 【機種：建物・構築物（保管・廃棄エリア）】

既認可の仕様表	仕様表	要求事項の整理	発電炉類似設備要目表	備考																																																																																											
<p style="background-color: #ADD8E6;">該当しないため、記載を削除。</p> <table border="1"> <caption>表-1 固体廃棄物の廃棄設備の仕様（保管廃棄区画）</caption> <tr><td>許可番号（日付）</td><td>平成 20・12・16 原第 3 号（平成 22 年 1 月 21 日付）</td></tr> <tr><td>主要な設備及び機器の種類</td><td>放射性廃棄物の廃棄施設</td></tr> <tr><td>許可との対応</td><td>上記施設の構成機器</td></tr> <tr><td>設備・機器名称</td><td>固体廃棄物の廃棄設備</td></tr> <tr><td>設備・機器の区分</td><td>本体</td></tr> <tr><td>設置場所</td><td>ウラン貯蔵・廃棄物建屋 Bウラン濃縮廃棄物室</td></tr> <tr><td>機器名</td><td>保管廃棄区画</td></tr> <tr><td>変更内容</td><td>新設</td></tr> <tr><td>台数</td><td>1区画（保管廃棄区画②） *1</td></tr> <tr><td>型式</td><td>—</td></tr> <tr><td>主要な構造材</td><td>—</td></tr> </table> <p style="background-color: #ADD8E6;">該当しないため、記載を削除。</p>	許可番号（日付）	平成 20・12・16 原第 3 号（平成 22 年 1 月 21 日付）	主要な設備及び機器の種類	放射性廃棄物の廃棄施設	許可との対応	上記施設の構成機器	設備・機器名称	固体廃棄物の廃棄設備	設備・機器の区分	本体	設置場所	ウラン貯蔵・廃棄物建屋 Bウラン濃縮廃棄物室	機器名	保管廃棄区画	変更内容	新設	台数	1区画（保管廃棄区画②） *1	型式	—	主要な構造材	—	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th colspan="2">変更前</th> <th>変更後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>名称^{*1}</td> <td>—</td> <td colspan="2">固体廃棄物保管廃棄区画 (Bウラン濃縮廃棄物室)^{*6,7}</td> <td></td> </tr> <tr> <td>種類^{*2}</td> <td>—</td> <td colspan="2">—^{*3}</td> <td></td> </tr> <tr> <td>容量^{*4}</td> <td>本</td> <td> エリア① 約 1800 (200 L ドラム 缶換算)^{*9} (上段: 約 600 (200 L ドラム 缶換算)^{*9}) 中段: 約 600 (200 L ドラム 缶換算)^{*9} 下段: 約 600 (200 L ドラム 缶換算)^{*9} </td> <td> エリア② 約 2600 (200 L ドラム 缶換算)^{*9} (上段: 約 867 (200 L ドラム 缶換算)^{*9}) 中段: 約 867 (200 L ドラム 缶換算)^{*9} 下段: 約 867 (200 L ドラム 缶換算)^{*9} </td> <td></td> </tr> <tr> <td>臨界管理</td> <td>—</td> <td colspan="2">—^{*8}</td> <td>変更なし</td> </tr> <tr> <td>区画面積^{*4}</td> <td>m²</td> <td>エリア① 264 以上^{*10}</td> <td>エリア② 376 以上^{*10}</td> <td></td> </tr> <tr> <td>区画高さ</td> <td>m</td> <td colspan="2">3.44 以上^{*10}</td> <td></td> </tr> <tr> <td>個数^{*4}</td> <td>区画</td> <td colspan="2">+</td> <td></td> </tr> <tr> <td>取付箇所</td> <td>設置床 (室名称)^{*5}</td> <td colspan="2">Bウラン濃縮廃棄物室</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注記 *1: 記載の適正化。既設工認には「機器名」と記載。 *2: 記載の適正化。既設工認には「型式」と記載。 *3: 記載の適正化。既設工認には「その他事業許可で求める仕様」と記載。 *4: 記載の適正化。既設工認には「寸法」と記載。 *5: 記載の適正化。既設工認には「設置場所」と記載。 *6: 建物（ウラン貯蔵・廃棄物庫）の一部として設計する。 *7: 記載の適正化。既設工認には「保管廃棄区画」と記載。 *8: 種別を必要としないため「—」とする。 *9: 本保管廃棄区画に保管廃棄する廃棄物は、最大ウラン含有量を加工施設保安規定に基づき制限することから、臨界管理の対象外であるため「—」とする。 *10: パレットを介して保管廃棄すること（200 L ドラム缶 4 本/パレット 1 枚）を見込んだ面積を示す。 *11: パレットを介して 3 段積みにて保管廃棄することを見込んだ高さを示す。 *11: 系統区別を必要としないため「—」とする。</p>			変更前		変更後	名称 ^{*1}	—	固体廃棄物保管廃棄区画 (Bウラン濃縮廃棄物室) ^{*6,7}			種類 ^{*2}	—	— ^{*3}			容量 ^{*4}	本	エリア① 約 1800 (200 L ドラム 缶換算) ^{*9} (上段: 約 600 (200 L ドラム 缶換算) ^{*9}) 中段: 約 600 (200 L ドラム 缶換算) ^{*9} 下段: 約 600 (200 L ドラム 缶換算) ^{*9}	エリア② 約 2600 (200 L ドラム 缶換算) ^{*9} (上段: 約 867 (200 L ドラム 缶換算) ^{*9}) 中段: 約 867 (200 L ドラム 缶換算) ^{*9} 下段: 約 867 (200 L ドラム 缶換算) ^{*9}		臨界管理	—	— ^{*8}		変更なし	区画面積 ^{*4}	m ²	エリア① 264 以上 ^{*10}	エリア② 376 以上 ^{*10}		区画高さ	m	3.44 以上 ^{*10}			個数 ^{*4}	区画	+			取付箇所	設置床 (室名称) ^{*5}	Bウラン濃縮廃棄物室			<p>技術基準 機能要求^② 主な仕様 (詳細設計)</p> <p>様式-6, 7</p> <p>第二十条 〇廃棄施設</p> <p>廃棄施設 本施設の放射性廃棄物の保管廃棄施設は、放射性廃棄物を保管廃棄するために必要な容量を有する設計とする。</p> <p>容量 主要寸法</p> <p>【補足説明】 ・濃縮個別 46 の修正を反映し、仕様項目を修正する。</p> <p>【補足説明】 ・最新の共通 06 の整理に基づき、項目の削除を検討した。保管廃棄区画は建物一体（建物の一部）として設計するものであること及び要求事項が容量であることから、建物で示す仕様等の項目を削除する。</p>	<p>(6) 廃棄物貯蔵庫の名称、種類、容量、主要寸法及び材料</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">名称</th> <th rowspan="2">種類</th> <th rowspan="2">容量</th> <th colspan="3">主要寸法</th> <th rowspan="2">材料</th> </tr> <tr> <th>たて</th> <th>横</th> <th>高さ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>変更前</td> <td>建物 (エリア) 地上階建 (エリア) ドラム缶詰固体廃棄物貯蔵庫</td> <td>200 L ドラム缶 約 本相当 上段約 本 中段約 本 下段約 本</td> <td>m</td> <td>m</td> <td>m</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>変更後</td> <td>建物 (エリア) 地上階建 (エリア) ドラム缶詰固体廃棄物貯蔵庫</td> <td>200 L ドラム缶 約 本相当 上段約 本 中段約 本 下段約 本</td> <td>m</td> <td>m</td> <td>m</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table> <p>注記: * () 内は、貯蔵エリアを示す。 : 変更後の最右欄は今回増設分を示す。</p>	名称	種類	容量	主要寸法			材料	たて	横	高さ	変更前	建物 (エリア) 地上階建 (エリア) ドラム缶詰固体廃棄物貯蔵庫	200 L ドラム缶 約 本相当 上段約 本 中段約 本 下段約 本	m	m	m	—	変更後	建物 (エリア) 地上階建 (エリア) ドラム缶詰固体廃棄物貯蔵庫	200 L ドラム缶 約 本相当 上段約 本 中段約 本 下段約 本	m	m	m	—	<p>材料については、建物の仕様表の主要材料で記載しているため、記載しない。</p> <p>主要寸法の外寸については、建物の仕様表の主要寸法 (たて×横×高さ) で示しているため、保管エリア寸法を記載する。</p>
許可番号（日付）	平成 20・12・16 原第 3 号（平成 22 年 1 月 21 日付）																																																																																														
主要な設備及び機器の種類	放射性廃棄物の廃棄施設																																																																																														
許可との対応	上記施設の構成機器																																																																																														
設備・機器名称	固体廃棄物の廃棄設備																																																																																														
設備・機器の区分	本体																																																																																														
設置場所	ウラン貯蔵・廃棄物建屋 Bウラン濃縮廃棄物室																																																																																														
機器名	保管廃棄区画																																																																																														
変更内容	新設																																																																																														
台数	1区画（保管廃棄区画②） *1																																																																																														
型式	—																																																																																														
主要な構造材	—																																																																																														
		変更前		変更後																																																																																											
名称 ^{*1}	—	固体廃棄物保管廃棄区画 (Bウラン濃縮廃棄物室) ^{*6,7}																																																																																													
種類 ^{*2}	—	— ^{*3}																																																																																													
容量 ^{*4}	本	エリア① 約 1800 (200 L ドラム 缶換算) ^{*9} (上段: 約 600 (200 L ドラム 缶換算) ^{*9}) 中段: 約 600 (200 L ドラム 缶換算) ^{*9} 下段: 約 600 (200 L ドラム 缶換算) ^{*9}	エリア② 約 2600 (200 L ドラム 缶換算) ^{*9} (上段: 約 867 (200 L ドラム 缶換算) ^{*9}) 中段: 約 867 (200 L ドラム 缶換算) ^{*9} 下段: 約 867 (200 L ドラム 缶換算) ^{*9}																																																																																												
臨界管理	—	— ^{*8}		変更なし																																																																																											
区画面積 ^{*4}	m ²	エリア① 264 以上 ^{*10}	エリア② 376 以上 ^{*10}																																																																																												
区画高さ	m	3.44 以上 ^{*10}																																																																																													
個数 ^{*4}	区画	+																																																																																													
取付箇所	設置床 (室名称) ^{*5}	Bウラン濃縮廃棄物室																																																																																													
名称	種類	容量	主要寸法			材料																																																																																									
			たて	横	高さ																																																																																										
変更前	建物 (エリア) 地上階建 (エリア) ドラム缶詰固体廃棄物貯蔵庫	200 L ドラム缶 約 本相当 上段約 本 中段約 本 下段約 本	m	m	m	—																																																																																									
変更後	建物 (エリア) 地上階建 (エリア) ドラム缶詰固体廃棄物貯蔵庫	200 L ドラム缶 約 本相当 上段約 本 中段約 本 下段約 本	m	m	m	—																																																																																									

※赤字で示した箇所は、設工認申請書の記載の充実化。適正化を図る箇所を示す。

【凡例】

- : 今回の仕様表と既認可仕様表及び要求事項（様式-6,7等）が整合している項目
- : 既認可仕様表のうち、今回の仕様表に反映しない項目（反映しない理由を吹き出しにて記載）
- : 新規制基準に係る新たな要求事項（様式-6,7等）として仕様表に追加した項目
- : 発電炉の要目表のうち、今回の仕様表に反映しない項目（反映しない理由を備考に記載）
- ⋯ : 補足説明内容を示す部分

仕様表記載例 23f 【機種：建物・構築物（火災区域構築物）】

既認可の仕様表	仕様表	要求事項の整理	発電炉類似設備要目表	備考																																																																																																																																																												
<p>【既認可仕様表の該当無し】</p>	<p>変更後</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">名称</th> <th rowspan="2">火災区域名称</th> <th colspan="2">区分</th> <th rowspan="2">火災区域名称</th> <th rowspan="2">種類</th> <th rowspan="2">主要寸法 (mm)</th> <th rowspan="2">材料</th> </tr> <tr> <th>火災区域</th> <th>番号</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">A ウラン貯蔵室^{*1}</td> <td rowspan="3">B ウラン貯蔵室^{*1}</td> <td>火災区域</td> <td>R-7</td> <td rowspan="3">火災区域</td> <td rowspan="3">壁</td> <td>150以上 (400[°])</td> <td rowspan="3">鉄筋コンクリート</td> </tr> <tr> <td>火災区域</td> <td>R-8</td> <td>150以上 (400[°])</td> </tr> <tr> <td>火災区域</td> <td>R-9</td> <td>150以上 (400[°])</td> </tr> </tbody> </table> <p>注記 *1：本設備は既存の設備である。 *2：公称値のうち最小のものを示す。</p>	名称	火災区域名称	区分		火災区域名称	種類	主要寸法 (mm)	材料	火災区域	番号	A ウラン貯蔵室 ^{*1}	B ウラン貯蔵室 ^{*1}	火災区域	R-7	火災区域	壁	150以上 (400 [°])	鉄筋コンクリート	火災区域	R-8	150以上 (400 [°])	火災区域	R-9	150以上 (400 [°])	<p>技術基準</p> <p>機要要求② 様式-6, 7</p> <p>主な仕様 (詳細設計)</p> <p>第十一条 火災等による損傷の防止</p> <p>○火災の影響軽減 ・本施設内のUF₀を内包する設備及び機器を収納する建屋は、建築基準法に基づく耐火建築物又は準耐火建築物とし、建屋の防火区画は、耐火性能を備えた防火壁、防火扉及び防火シャッタにより区画し、火災の延焼を防止する設計とする。 ・消防法に基づき設定する本施設内の防火区画のうち、UF₀を内包する機器を設置する防火区画を火災区域として設定する。火災区域は、室内の火災荷重から導かれる等価時間(潜在的火災継続時間)以上の耐火能力を有する耐火壁(耐火シール、防火扉、防火シャッタを含む。)によって他の区域と分離する。 ・各火災区域は、耐火壁により隣接区域間の延焼を防止するか又は耐火壁、隔壁、間隔、消火設備等の組み合わせにより、隣接区域間及び火災区域内の延焼防止を行う設計とする。</p>	<p>発電炉類似設備要目表</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">名称</th> <th rowspan="2">火災区域 (区分)</th> <th rowspan="2">区分</th> <th rowspan="2">番号</th> <th rowspan="2">種類</th> <th rowspan="2">主要寸法 (mm)</th> <th rowspan="2">材料</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>原子炉建屋貯蔵庫及び原子炉貯蔵庫付属機 (R-1) ^{*1}</td> <td>火災区域</td> <td>R-1</td> <td>壁</td> <td>150以上 (400[°])</td> <td>鉄筋コンクリート</td> </tr> <tr> <td>原子炉建屋貯蔵庫及び原子炉貯蔵庫付属機 (R-2) ^{*1}</td> <td>火災区域</td> <td>R-2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>原子炉建屋貯蔵庫 (R-3) ^{*1}</td> <td>火災区域</td> <td>R-3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>原子炉建屋貯蔵庫 (R-4) ^{*1}</td> <td>火災区域</td> <td>R-4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>原子炉建屋貯蔵庫 (R-5) ^{*1}</td> <td>火災区域</td> <td>R-5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>原子炉建屋貯蔵庫 (R-6) ^{*1}</td> <td>火災区域</td> <td>R-6</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>原子炉建屋貯蔵庫 (R-7) ^{*1}</td> <td>火災区域</td> <td>R-7</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>原子炉建屋貯蔵庫 (R-8) ^{*1}</td> <td>火災区域</td> <td>R-8</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>原子炉建屋貯蔵庫 (R-9) ^{*1}</td> <td>火災区域</td> <td>R-9</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>原子炉建屋貯蔵庫 (R-10) ^{*1}</td> <td>火災区域</td> <td>R-10</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>原子炉建屋貯蔵庫 (R-11) ^{*1}</td> <td>火災区域</td> <td>R-11</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>原子炉建屋貯蔵庫 (R-12) ^{*1}</td> <td>火災区域</td> <td>R-12</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>原子炉建屋貯蔵庫 (DR-1) ^{*1}</td> <td>火災区域</td> <td>R-13</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>原子炉建屋貯蔵庫 (DR-2) ^{*1}</td> <td>火災区域</td> <td>R-14</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>原子炉建屋貯蔵庫 (DR-3) ^{*1}</td> <td>火災区域</td> <td>R-15</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>原子炉建屋貯蔵庫 (DR-4) ^{*1}</td> <td>火災区域</td> <td>R-16</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>原子炉建屋貯蔵庫 (DR-5) ^{*1}</td> <td>火災区域</td> <td>R-17</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>原子炉建屋貯蔵庫 (DR-6) ^{*1}</td> <td>火災区域</td> <td>R-18</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>注記 *1：本設備は既存の設備である。 *2：公称値のうち最小のものを示す。</p>	名称	火災区域 (区分)	区分	番号	種類	主要寸法 (mm)	材料	原子炉建屋貯蔵庫及び原子炉貯蔵庫付属機 (R-1) ^{*1}	火災区域	R-1	壁	150以上 (400 [°])	鉄筋コンクリート	原子炉建屋貯蔵庫及び原子炉貯蔵庫付属機 (R-2) ^{*1}	火災区域	R-2					原子炉建屋貯蔵庫 (R-3) ^{*1}	火災区域	R-3					原子炉建屋貯蔵庫 (R-4) ^{*1}	火災区域	R-4					原子炉建屋貯蔵庫 (R-5) ^{*1}	火災区域	R-5					原子炉建屋貯蔵庫 (R-6) ^{*1}	火災区域	R-6					原子炉建屋貯蔵庫 (R-7) ^{*1}	火災区域	R-7					原子炉建屋貯蔵庫 (R-8) ^{*1}	火災区域	R-8					原子炉建屋貯蔵庫 (R-9) ^{*1}	火災区域	R-9					原子炉建屋貯蔵庫 (R-10) ^{*1}	火災区域	R-10					原子炉建屋貯蔵庫 (R-11) ^{*1}	火災区域	R-11					原子炉建屋貯蔵庫 (R-12) ^{*1}	火災区域	R-12					原子炉建屋貯蔵庫 (DR-1) ^{*1}	火災区域	R-13					原子炉建屋貯蔵庫 (DR-2) ^{*1}	火災区域	R-14					原子炉建屋貯蔵庫 (DR-3) ^{*1}	火災区域	R-15					原子炉建屋貯蔵庫 (DR-4) ^{*1}	火災区域	R-16					原子炉建屋貯蔵庫 (DR-5) ^{*1}	火災区域	R-17					原子炉建屋貯蔵庫 (DR-6) ^{*1}	火災区域	R-18					
名称	火災区域名称			区分						火災区域名称	種類			主要寸法 (mm)	材料																																																																																																																																																	
		火災区域	番号																																																																																																																																																													
A ウラン貯蔵室 ^{*1}	B ウラン貯蔵室 ^{*1}	火災区域	R-7	火災区域	壁	150以上 (400 [°])	鉄筋コンクリート																																																																																																																																																									
		火災区域	R-8			150以上 (400 [°])																																																																																																																																																										
		火災区域	R-9			150以上 (400 [°])																																																																																																																																																										
名称	火災区域 (区分)	区分	番号	種類	主要寸法 (mm)	材料																																																																																																																																																										
							原子炉建屋貯蔵庫及び原子炉貯蔵庫付属機 (R-1) ^{*1}	火災区域	R-1	壁	150以上 (400 [°])	鉄筋コンクリート																																																																																																																																																				
原子炉建屋貯蔵庫及び原子炉貯蔵庫付属機 (R-2) ^{*1}	火災区域	R-2																																																																																																																																																														
原子炉建屋貯蔵庫 (R-3) ^{*1}	火災区域	R-3																																																																																																																																																														
原子炉建屋貯蔵庫 (R-4) ^{*1}	火災区域	R-4																																																																																																																																																														
原子炉建屋貯蔵庫 (R-5) ^{*1}	火災区域	R-5																																																																																																																																																														
原子炉建屋貯蔵庫 (R-6) ^{*1}	火災区域	R-6																																																																																																																																																														
原子炉建屋貯蔵庫 (R-7) ^{*1}	火災区域	R-7																																																																																																																																																														
原子炉建屋貯蔵庫 (R-8) ^{*1}	火災区域	R-8																																																																																																																																																														
原子炉建屋貯蔵庫 (R-9) ^{*1}	火災区域	R-9																																																																																																																																																														
原子炉建屋貯蔵庫 (R-10) ^{*1}	火災区域	R-10																																																																																																																																																														
原子炉建屋貯蔵庫 (R-11) ^{*1}	火災区域	R-11																																																																																																																																																														
原子炉建屋貯蔵庫 (R-12) ^{*1}	火災区域	R-12																																																																																																																																																														
原子炉建屋貯蔵庫 (DR-1) ^{*1}	火災区域	R-13																																																																																																																																																														
原子炉建屋貯蔵庫 (DR-2) ^{*1}	火災区域	R-14																																																																																																																																																														
原子炉建屋貯蔵庫 (DR-3) ^{*1}	火災区域	R-15																																																																																																																																																														
原子炉建屋貯蔵庫 (DR-4) ^{*1}	火災区域	R-16																																																																																																																																																														
原子炉建屋貯蔵庫 (DR-5) ^{*1}	火災区域	R-17																																																																																																																																																														
原子炉建屋貯蔵庫 (DR-6) ^{*1}	火災区域	R-18																																																																																																																																																														

【凡例】

- ：今回の仕様表と既認可仕様表及び要求事項（様式-6, 7 等）が整合している項目
- ：既認可仕様表のうち、今回の仕様表に反映しない項目（反映しない理由を吹き出しにて記載）
- ：新規基準に係る新たな要求事項（様式-6, 7 等）として仕様表に追加した項目
- ：発電炉の要目表のうち、今回の仕様表に反映しない項目（反映しない理由を備考に記載）
- ：補足説明内容を示す部分

仕様表記載例 23g 【機種：建物・構築物（防水区画構造物）】

既認可の仕様表	仕様表	要求事項の整理	発電炉類似設備要目表	備考																																																																																					
【既認可仕様表の該当無し】	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>変更前</th> <th>変更後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>名称</td> <td>-</td> <td></td> <td>溢水防護堰（固定式）</td> </tr> <tr> <td>種類</td> <td>-</td> <td></td> <td>固定式</td> </tr> <tr> <td>主要寸法</td> <td>高さ mm</td> <td></td> <td>100 以上</td> </tr> <tr> <td>主要材料</td> <td>堰本体</td> <td>-</td> <td>ステンレス鋼</td> </tr> <tr> <td colspan="2">個数</td> <td>基</td> <td>18</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">取付箇所</td> <td>系統名（ライン名）</td> <td>-</td> <td>-*1</td> </tr> <tr> <td>設置床（室名称）</td> <td>-</td> <td>1号中間室, 2号中間室, 1号発生回収室, 1号均質室, 2号発生回収室, ホット予備品室, 付着ウラン回収廃棄物室</td> </tr> <tr> <td>溢水防護上の区画番号</td> <td>-</td> <td>-*2</td> </tr> <tr> <td>溢水防護上の配慮が必要な高さ</td> <td>-</td> <td>-*3</td> </tr> </tbody> </table> <p>注記 *1：系統区別を必要としないため「-」とする。 *2：溢水防護上の区画番号を設定していないことから「-」とする。 *3：溢水による火災の発生の可能性のある機器またはプラント監視に用いる機器ではないことから溢水防護上の配慮が必要な高さは「-」とする。</p>			変更前	変更後	名称	-		溢水防護堰（固定式）	種類	-		固定式	主要寸法	高さ mm		100 以上	主要材料	堰本体	-	ステンレス鋼	個数		基	18	取付箇所	系統名（ライン名）	-	-*1	設置床（室名称）	-	1号中間室, 2号中間室, 1号発生回収室, 1号均質室, 2号発生回収室, ホット予備品室, 付着ウラン回収廃棄物室	溢水防護上の区画番号	-	-*2	溢水防護上の配慮が必要な高さ	-	-*3	<table border="1"> <thead> <tr> <th>技術基準</th> <th>機能要求② 様式-6, 7</th> <th>主な仕様 (詳細設計)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第十二条 溢水による損傷の防止</td> <td>○溢水防護対策 想定される内部溢水に対して以下の対策を講じる。 ・第1種管理区域内の溢水が、所定の放出経路を 通らずに建屋外へ漏えいしないよう扉部に堰等を 設置する設計とする。 なお、堰の高さについては、水面の変動を考慮した 溢水高さを確保する設計とする。</td> <td>設置床（室名称） 主要寸法</td> </tr> </tbody> </table> <p>【補足説明】 ・濃縮個別 30 の修正を反映し、個数に対する要求がないことから項目を削除する。</p>	技術基準	機能要求② 様式-6, 7	主な仕様 (詳細設計)	第十二条 溢水による損傷の防止	○溢水防護対策 想定される内部溢水に対して以下の対策を講じる。 ・第1種管理区域内の溢水が、所定の放出経路を 通らずに建屋外へ漏えいしないよう扉部に堰等を 設置する設計とする。 なお、堰の高さについては、水面の変動を考慮した 溢水高さを確保する設計とする。	設置床（室名称） 主要寸法	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="3"></th> <th>変更前</th> <th>変更後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="3">名称</td> <td></td> <td>原子炉建屋原子炉棟溢水 拡大防止堰 B1-1</td> </tr> <tr> <td>種</td> <td>類</td> <td>-</td> <td></td> <td>堰</td> </tr> <tr> <td>主要寸法</td> <td>高さ</td> <td>mm</td> <td></td> <td>300 以上*</td> </tr> <tr> <td>材料</td> <td>堰</td> <td>-</td> <td></td> <td>鉄筋コンクリート</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">取付箇所</td> <td>系統名 (ライン名)</td> <td>-</td> <td></td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>設置床</td> <td>-</td> <td></td> <td>EL. 2.00 m</td> </tr> <tr> <td>溢水防護上の 区画番号</td> <td>-</td> <td></td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>溢水防護上の 配慮が必要な高さ</td> <td>-</td> <td></td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table> <p>注記 *：EL. 2.00 m からの高さ。</p>				変更前	変更後	名称				原子炉建屋原子炉棟溢水 拡大防止堰 B1-1	種	類	-		堰	主要寸法	高さ	mm		300 以上*	材料	堰	-		鉄筋コンクリート	取付箇所	系統名 (ライン名)	-		-	設置床	-		EL. 2.00 m	溢水防護上の 区画番号	-		-	溢水防護上の 配慮が必要な高さ	-		-	
		変更前	変更後																																																																																						
名称	-		溢水防護堰（固定式）																																																																																						
種類	-		固定式																																																																																						
主要寸法	高さ mm		100 以上																																																																																						
主要材料	堰本体	-	ステンレス鋼																																																																																						
個数		基	18																																																																																						
取付箇所	系統名（ライン名）	-	-*1																																																																																						
	設置床（室名称）	-	1号中間室, 2号中間室, 1号発生回収室, 1号均質室, 2号発生回収室, ホット予備品室, 付着ウラン回収廃棄物室																																																																																						
	溢水防護上の区画番号	-	-*2																																																																																						
	溢水防護上の配慮が必要な高さ	-	-*3																																																																																						
技術基準	機能要求② 様式-6, 7	主な仕様 (詳細設計)																																																																																							
第十二条 溢水による損傷の防止	○溢水防護対策 想定される内部溢水に対して以下の対策を講じる。 ・第1種管理区域内の溢水が、所定の放出経路を 通らずに建屋外へ漏えいしないよう扉部に堰等を 設置する設計とする。 なお、堰の高さについては、水面の変動を考慮した 溢水高さを確保する設計とする。	設置床（室名称） 主要寸法																																																																																							
			変更前	変更後																																																																																					
名称				原子炉建屋原子炉棟溢水 拡大防止堰 B1-1																																																																																					
種	類	-		堰																																																																																					
主要寸法	高さ	mm		300 以上*																																																																																					
材料	堰	-		鉄筋コンクリート																																																																																					
取付箇所	系統名 (ライン名)	-		-																																																																																					
	設置床	-		EL. 2.00 m																																																																																					
	溢水防護上の 区画番号	-		-																																																																																					
	溢水防護上の 配慮が必要な高さ	-		-																																																																																					

※赤字で示した箇所は、設工認申請書の記載の充実化。適正化を図る箇所を示す。

【凡例】

- ： 今回の仕様表と既認可仕様表及び要求事項（様式-6, 7 等）が整合している項目
- ： 既認可仕様表のうち、今回の仕様表に反映しない項目（反映しない理由を吹き出しにて記載）
- ： 新規制基準に係る新たな要求事項（様式-6, 7 等）として仕様表に追加した項目
- ： 発電炉の要目表のうち、今回の仕様表に反映しない項目（反映しない理由を備考に記載）
- ： 補足説明内容を示す部分

仕様表記載例 23h 【機種：建物・構築物（飛来物防護設備）】

既認可の仕様表	仕様表	要求事項の整理	発電炉類似設備要目表	備考																																														
【既認可仕様表の該当無し】	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>変更前</th> <th>変更後</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>名称</td> <td>—</td> <td></td> <td>竜巻防護扉</td> </tr> <tr> <td>種類</td> <td>—</td> <td></td> <td>手動片開き式</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">主要寸法</td> <td>たて</td> <td>mm</td> <td>218.3^{*1}</td> </tr> <tr> <td>横</td> <td>mm</td> <td>850^{*1}</td> </tr> <tr> <td>高さ</td> <td>mm</td> <td>1926^{*1}</td> </tr> <tr> <td>表側鋼板厚さ</td> <td>mm</td> <td>8.2以上 (16^{*1})</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">主要材料</td> <td>表側鋼板</td> <td>—</td> <td>SUS304</td> </tr> <tr> <td>個数</td> <td>枚</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">取付箇所</td> <td>系統名 (ライン名)</td> <td>—</td> <td>—^{*2}</td> </tr> <tr> <td>設置床 (室名称)</td> <td>—</td> <td>2号発回均質室</td> </tr> </tbody> </table> <p>注記 *1：公称値を示す。 *2：系統区別を必要としないため「—」とする。</p>			変更前	変更後	名称	—		竜巻防護扉	種類	—		手動片開き式	主要寸法	たて	mm	218.3 ^{*1}	横	mm	850 ^{*1}	高さ	mm	1926 ^{*1}	表側鋼板厚さ	mm	8.2以上 (16 ^{*1})	主要材料	表側鋼板	—	SUS304	個数	枚	1	取付箇所	系統名 (ライン名)	—	— ^{*2}	設置床 (室名称)	—	2号発回均質室	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">技術基準</th> <th>機能要求②</th> <th rowspan="2">主な仕様 (詳細設計)</th> </tr> <tr> <th>様式-6,7</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第八条 外部からの衝撃による損傷の防止</td> <td>○竜巻防護設計 (1) 建屋により防護する施設 建屋により防護する施設を収納する2号発回均質棟の開口部(扉, シャッタ)のうち, 設計飛来物の侵入により均質槽の安全機能に影響を与え得るおそれのある開口部(扉, シャッタ)には, 防護板等により設計飛来物の侵入を防止する設計とする。 a. 設計飛来物の貫通を防止することができる又は設計飛来物の運動エネルギーを吸収することができる設計とする。 b. 建屋及び設備の耐震性に影響を与えない設計とする。 c. 竜巻防護施設の安全機能に影響を与えない設計とする。 d. 保守・点検及び資機材等の搬出入を考慮した設計とする。</td> <td>主要寸法(厚さ) 主要材料 設置床(室名称)</td> </tr> </tbody> </table>	技術基準	機能要求②	主な仕様 (詳細設計)	様式-6,7	第八条 外部からの衝撃による損傷の防止	○竜巻防護設計 (1) 建屋により防護する施設 建屋により防護する施設を収納する2号発回均質棟の開口部(扉, シャッタ)のうち, 設計飛来物の侵入により均質槽の安全機能に影響を与え得るおそれのある開口部(扉, シャッタ)には, 防護板等により設計飛来物の侵入を防止する設計とする。 a. 設計飛来物の貫通を防止することができる又は設計飛来物の運動エネルギーを吸収することができる設計とする。 b. 建屋及び設備の耐震性に影響を与えない設計とする。 c. 竜巻防護施設の安全機能に影響を与えない設計とする。 d. 保守・点検及び資機材等の搬出入を考慮した設計とする。	主要寸法(厚さ) 主要材料 設置床(室名称)	<p><発電炉要目表なし></p> <p>以下発電炉の基本設計方針抜粋</p> <p>2.3.3 設計方針</p> <p>(中略)</p> <p>防護措置として設置する防護対策施設としては, 防護ネット(硬鋼線材:線径φ4 mm, 網目寸法40 mm), 防護鋼板(炭素鋼:板厚16 mm 以上), 架構及び扉(炭素鋼:板厚31.2 mm 以上)を設置し, 内包する外部事象防護対象施設の機能を損なわないよう, 外部事象防護対象施設の機能喪失に至る可能性のある飛来物が外部事象防護対象施設に衝突することを防止する設計とする。</p>	
		変更前	変更後																																															
名称	—		竜巻防護扉																																															
種類	—		手動片開き式																																															
主要寸法	たて	mm	218.3 ^{*1}																																															
	横	mm	850 ^{*1}																																															
	高さ	mm	1926 ^{*1}																																															
	表側鋼板厚さ	mm	8.2以上 (16 ^{*1})																																															
主要材料	表側鋼板	—	SUS304																																															
	個数	枚	1																																															
取付箇所	系統名 (ライン名)	—	— ^{*2}																																															
	設置床 (室名称)	—	2号発回均質室																																															
技術基準	機能要求②	主な仕様 (詳細設計)																																																
	様式-6,7																																																	
第八条 外部からの衝撃による損傷の防止	○竜巻防護設計 (1) 建屋により防護する施設 建屋により防護する施設を収納する2号発回均質棟の開口部(扉, シャッタ)のうち, 設計飛来物の侵入により均質槽の安全機能に影響を与え得るおそれのある開口部(扉, シャッタ)には, 防護板等により設計飛来物の侵入を防止する設計とする。 a. 設計飛来物の貫通を防止することができる又は設計飛来物の運動エネルギーを吸収することができる設計とする。 b. 建屋及び設備の耐震性に影響を与えない設計とする。 c. 竜巻防護施設の安全機能に影響を与えない設計とする。 d. 保守・点検及び資機材等の搬出入を考慮した設計とする。	主要寸法(厚さ) 主要材料 設置床(室名称)																																																

【凡例】

- : 今回の仕様表と既認可仕様表及び要求事項(様式-6,7等)が整合している項目
- : 既認可仕様表のうち, 今回の仕様表に反映しない項目(反映しない理由を吹き出しにて記載)
- : 新規制基準に係る新たな要求事項(様式-6,7等)として仕様表に追加した項目
- : 発電炉の要目表のうち, 今回の仕様表に反映しない項目(反映しない理由を備考に記載)
- : 補足説明内容を示す部分

全社と濃縮の仕様表展開表の比較

Table with columns for classification (機種分類, 分類), specification items (仕様表記載事項), and comparison indicators. Includes a legend for 'DB設備' and 'DB仕様'.

